

2022年度
科研費申請講演会

科研費申請の最新動向

～ 採択をつかむためのポイント解説～

ロバスト・ジャパン株式会社
代表取締役 中安 豪

目次

- ◆ 2022年度科研費の最新トピックス
- ◆ 科学技術政策と科研費の動向
- ◆ 評価ポイントを踏まえた研究計画調書の作成戦略
- ◆ 研究計画調書のブラッシュアップ

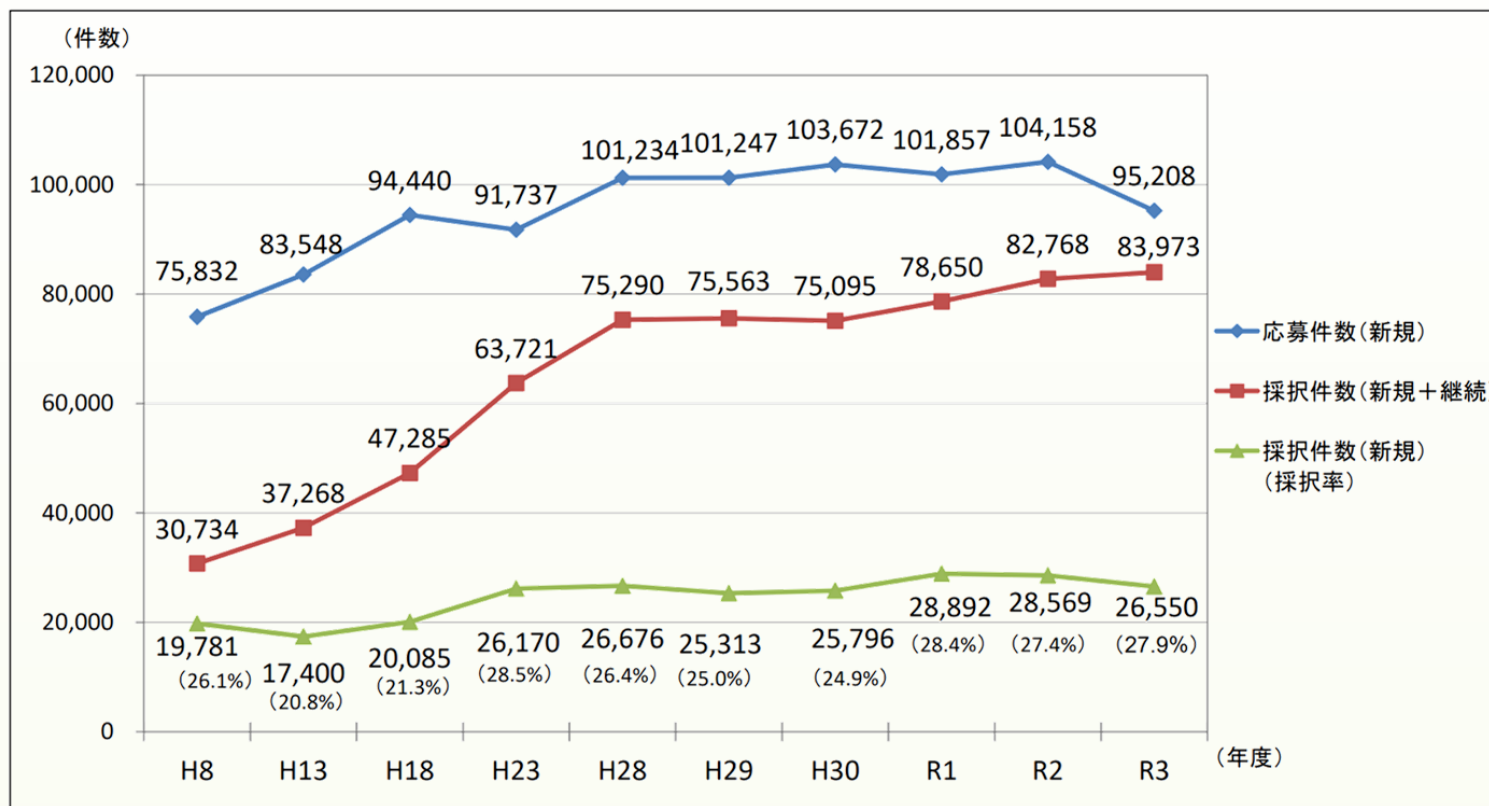


2022年度科研費の最新トピックス



科研費の応募件数等の推移

科研費の主な研究種目における応募件数、採択件数、採択率の推移



令和3年度においては、「特別推進研究」、「新学術領域研究(研究領域提案型)」、「計画研究及び公募研究」、「学術変革領域研究(A)」、「計画研究及び公募研究」、「学術変革領域研究(B)」、「計画研究」、「基盤研究」(特設分野研究を除く)、「挑戦的萌芽研究」、「挑戦的研究」(特設審査領域を除く)、「若手研究」、「研究活動スタート支援」及び「国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))」について集計・掲載。

基盤研究種目群の動向

● 基盤研究

1人又は比較的少人数の研究者が行う独創的・先駆的な、これまでの蓄積に基づく学問分野の深化・発展を目指す研究を支援。

● 二段階審査の実施

基盤Aは、書面審査を合議審査を合わせた総合審査を実施。
基盤B、Cでは、二段階の書面審査を実施。

● 重複応募制限の緩和

挑戦的研究（萌芽）と基盤研究（B）の重複受給制度に加え、
挑戦的研究（開拓）と基盤研究（B）の重複受給を可能とする。

● 若手研究の二回目申請時の重複応募

若手研究から基盤研究へのスムーズな移行を図る。

● 基盤研究Cの応募件数の頭打ち

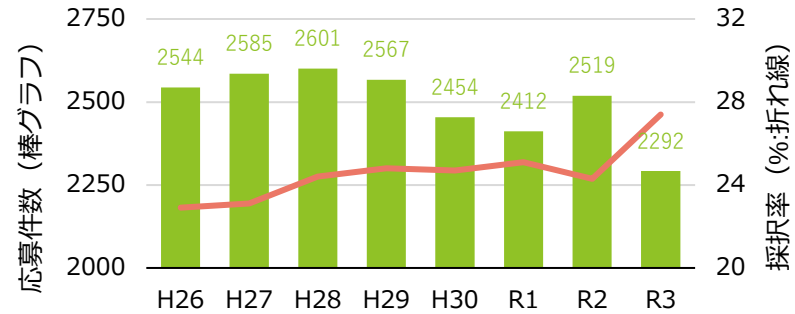
R2は、増加の一途であった基盤Cの応募件数が減少
R3は、新型コロナの影響により、申請数増大せず

● 充足率の低下傾向

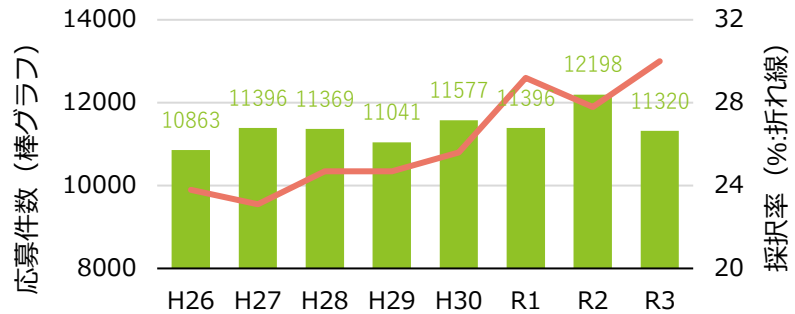
最低70%を目標としているが、充足率は低下傾向。
基盤Cの平均充足率は、60%台後半に突入している。

- (A) 3～5年間／2,000万円以上 5,000万円以下
- (B) 3～5年間／500万円以上 2,000万円以下
- (C) 3～5年間／500万円以下

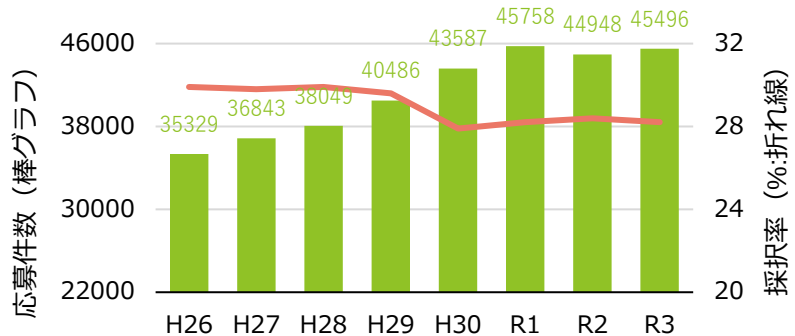
応募件数と採択率（基盤A）



応募件数と採択率（基盤B）



応募件数と採択率（基盤C）



若手研究種目群の動向

● 若手研究 2～5年間／500万円以下

若手研究者が1人で行う研究。若手研究者に独立して研究する機会を与える。「基盤研究」への発展性を重視する。

● 若手研究の採択率の引き上げ

若手研究の採択率が従来の約30%から約40%に上昇。

※ 研究活動スタート支援も同様の傾向

● 若手研究の応募要件の変更

令和3年度科研費から、年齢要件（39歳未満）を撤廃。

「博士の学位取得後8年未満」への一本化を図る。

● 若手研究の研究期間延伸

若手研究の研究期間を従来の「2～4年」から「2～5年」に変更。

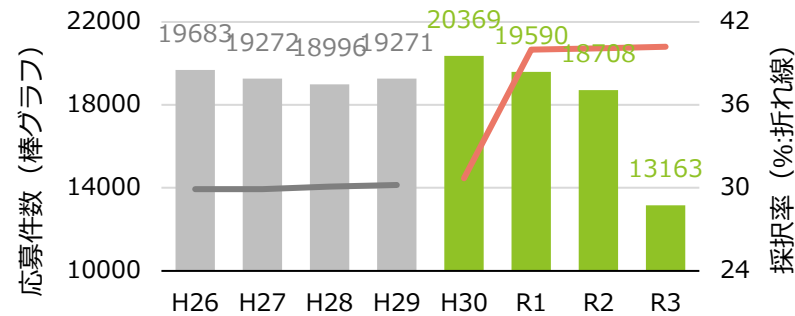
● 研究活動スタート支援 1～2年間／単年度当たり150万円以下

研究機関に採用されたばかりの研究者や育児休業等から復帰する研究者等が1人で行う研究

● 研究活動スタート支援の重複受給緩和

研究活動スタート支援と他種目との重複受給を大幅に緩和

応募件数と採択率（若手(B)⇒若手）

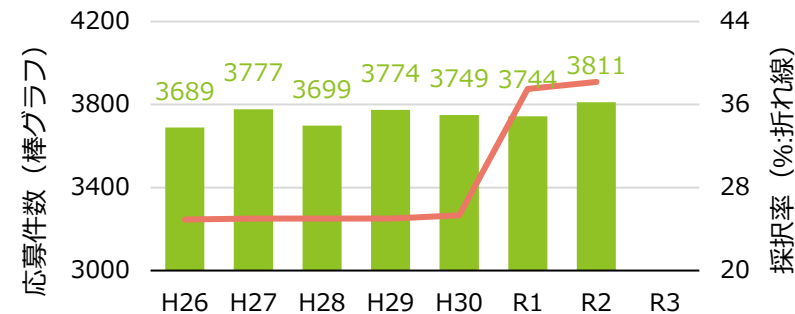


参考：若手研究

R2年度採択数 7,496

R3年度採択数 5,294 (-2,202)

応募件数と採択率（研スタ）



挑戦的研究の動向

● 挑戦的萌芽研究の発展的見直し

種目の位置づけを発展的に見直し、開拓と萌芽の二種目とする。
とりわけ「挑戦性」を重視した種目として位置付ける。

● 挑戦的研究

(開拓) 3～6年間／500万円以上 2,000万円以下
(萌芽) 2～3年間／500万円以下

1人又は複数の研究者で組織する研究計画。これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを志向し、飛躍的に発展する潜在性を有する研究を支援。なお、(萌芽)については、探索的性質の強い、あるいは芽生え期の研究も対象とする。

● 充足率の向上

100%に近い充足率を目指す。

● 事前の選考の導入

申請書の概要版のみを用いる「事前の選考」を実施。
挑戦的な研究を厳選すると共に、審査の負荷を軽減。
事前の選考を通過した計画のみが、書面審査と合議審査に進む。

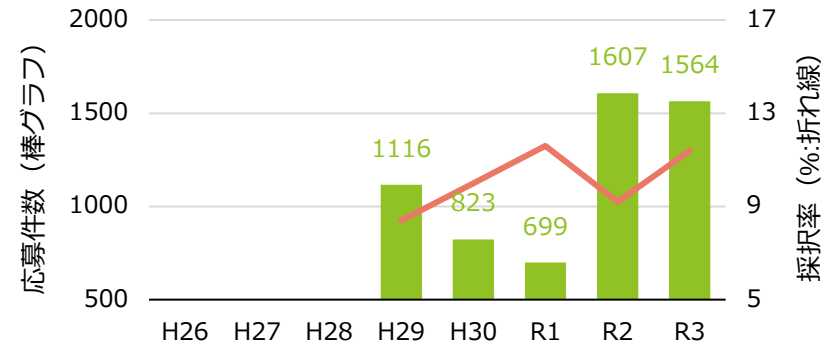
● 審査の方針

採択率30%の目標にとらわれず、採択件数を一定数に絞る。
中区分を採用し、より広い視点で真に挑戦的な研究を採択。

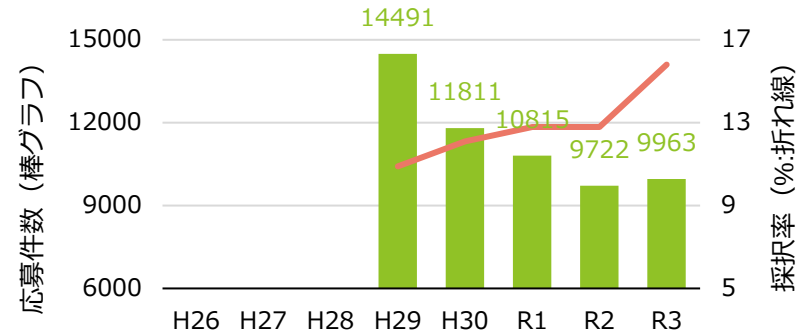
● 重複応募制限の緩和

挑戦的研究(萌芽)と基盤研究(B)の重複受給制度に加え、
挑戦的研究(開拓)と基盤研究(B)の重複受給を可能とする。

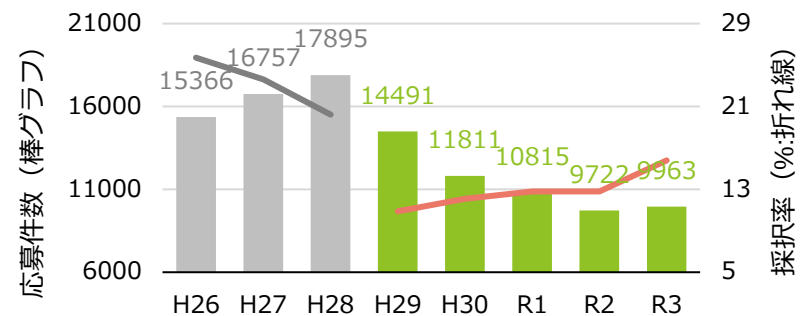
応募件数と採択率(挑戦(開拓))



応募件数と採択率(挑戦(萌芽))



応募件数と採択率(挑戦的萌芽→挑戦(萌芽))



審査区分について

審査区分表から、応募研究課題に最も相応しい審査区分を選択する。
(従来の「系・分野・分科・細目表（細目表）」は廃止。)

- 小区分：基盤研究（B,C）及び 若手研究
- 中区分：基盤研究（A）及び 挑戦的研究
- 大区分：基盤研究（S）

大区分D	
中区分26：材料工学およびその関連分野	
小区分	内容の例
26010	〔金属材料物性関連〕 電気磁気物性、電子情報物性、準安定状態、拡散、相変態、状態図、結晶格子欠陥、力学物性、熱光物性、材料計算科学、など
26020	〔無機材料および物性関連〕 機能性セラミックス、機能性ガラス、構造用セラミックス、カーボン系材料、結晶構造解析、組織制御、電気物性、力学物性、物理的・化学的性質、粒界物性、など
26030	〔複合材料および界面関連〕 機能性複合材料、構造用複合材料、生体用複合材料、複合高分子、表面処理、分散制御、接合、接着、界面物性、 材料機能 など



審査の大括り化

基盤研究(B)における合同審査

※令和5（2023）年度公募より

数字：2021年度の応募数

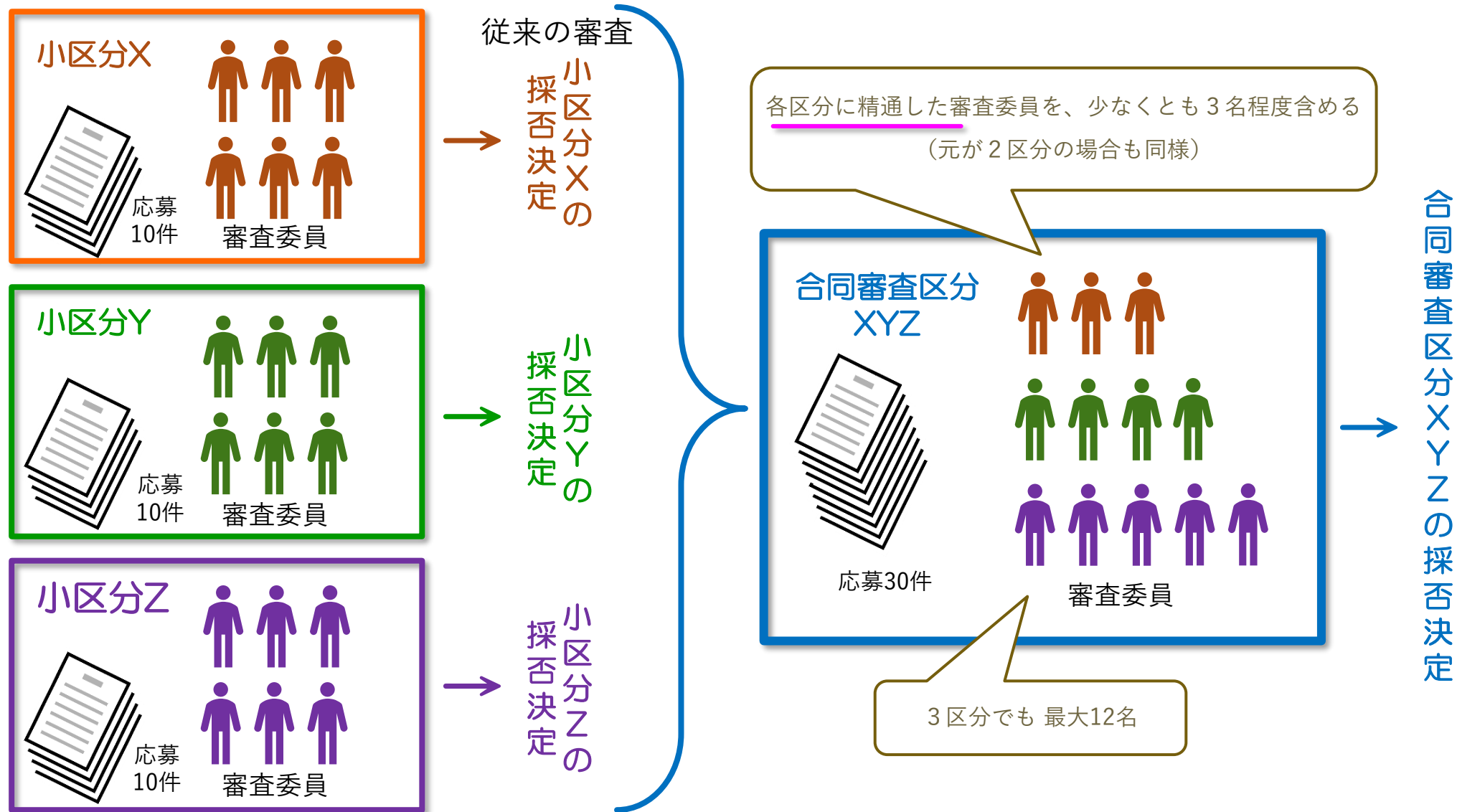
01010 哲学および倫理学関連 17	07010 理論経済学関連 14	
01080 科学社会学および科学技術史関連 12	07020 経済学説および経済思想関連 3	
01020 中国哲学、印度哲学および仏教学関連 11	07030 経済統計関連 8	60010 情報学基礎論関連 16
01030 宗教学関連 8	07060 金融およびファイナンス関連 14	60020 数理情報学関連 7
01040 思想史関連 10		
02010 日本文学関連 11	80030 ジェンダー関連 12	60030 統計科学関連 14
02020 中国文学関連 3	08010 社会学関連 64	61030 知能情報学関連 49
02030 英文学および英語圏文学関連 8	12030 数学基礎関連 3	60040 計算機システム関連 30
02040 ヨーロッパ文学関連 13	12040 応用数学および統計数学関連 17	60090 高性能計算関連 16
02060 言語学関連 20	18030 設計工学関連 7	60080 データベース関連 9
02080 英語学関連 7	18040 機械要素およびトライボロジー関連 21	62020 ウェブ情報学およびサービス情報学関連 31
02070 日本語学関連 7	39060 生物資源保全学関連 27	
02090 日本語教育関連 12	39070 ランドスケープ科学関連 14	
03060 文化財科学関連 33	45010 遺伝学関連 15	61020 ヒューマンインタフェースおよびインタラクション関連 56
03070 博物館学関連 17	45020 進化生物学関連 31	
05010 基礎法学関連 11	45050 自然人類学関連 13	62040 エンタテインメントおよびゲーム情報学関連 15
05030 国際法学関連 4	45060 応用人類学関連 8	
05040 社会法学関連 10	47010 薬系化学および創薬科学関連 42	90130 医用システム関連 46
05060 民事法学関連 11	47050 環境および天然医薬資源学関連 17	90140 医療技術評価学関連 12

参考：日本学術振興会（JSPS）科学研究費助成事業「審査区分表」の改正等について（2022年3月9日）

「科研費データ III 科研費の配分状況（1）研究種目別配分状況 ②審査区分別配分状況（令和3（2021）年度）」

合同審査の方法

基盤研究(B)の一部区分



令和 5 年度公募について

若手研究（2回目）と挑戦的研究（開拓）の重複制限緩和について

令和 5 (2023) 年度公募より、若手研究者支援を更に充実するため、若手研究（2回目）と**挑戦的研究（開拓）との重複応募・受給制限を緩和**します。

※ 若手研究（2回目）は、基盤研究Bと重複応募が可能（重複受給は不可）であることから、若手研究（2回目）、基盤研究B、挑戦的研究（開拓）の重複応募が可能であり、さらに学術変革領域（B）を重複で応募することも可能となる。

挑戦的研究の事前の選考による審査結果の通知について

令和 5 (2023) 年度公募より、挑戦的研究（開拓・萌芽）の事前の選考により不採択となった研究課題について、事前の選考による審査の終了後、電子申請システムにより研究代表者及び研究機関に審査結果を通知します。

研究活動スタート支援の応募要件の変更について

令和 5 (2023) 年度研究活動スタート支援の応募要件を変更します。

令和 6 年度公募について（先行情報）

特別推進研究及び基盤研究（S）の令和 6 (2024) 年度公募は、スケジュールをさらに早期化し、令和 5 (2023) 年 4 月に開始する予定です。



令和5年度公募について（重複制限の注意）

公募時期が早期化されたことに伴い、重複制限が適用される研究種目のうち公募時期が異なるものがあります。重複制限が適用される場合には、**既に電子申請システム上で提出（送信）済みの課題を取り下げたとしても、もう一方の研究種目に新たに応募することはできません。**

例）基盤研究（A）に研究代表者として応募した後に、基盤研究（B）に研究代表者として応募することはできません。

前年度公募の研究種目に応募しているが、当年度公募の**公募期間中に審査結果が通知されていない場合は、審査中の前年度公募の研究種目と当年度公募の研究種目の間には重複制限は適用されません。**ただし、前年度公募の研究種目が採択され、交付決定された場合には、採択された研究課題を継続課題として、当年度公募の研究種目との間に重複制限が適用されます。

科研費で、当該補助金の全部又は一部を翌年度に繰り越し、使用する場合には、**繰越しの承認を受けた補助事業と新たに応募しようとする研究課題の間においては、重複制限は適用されません。**ただし、新たに応募しようとする研究課題と、同一の研究代表者による他の応募研究課題（継続研究課題を含む。）との間においては、重複制限が適用されます。

科学技術政策と科研費の動向



総合知の活用について

3-1.「総合知」の基本的考え方

我が国の科学技術やイノベーションが様々な課題へ適切に対応し、世界に伍していくためには、「総合知」すなわち、多様な「知」が集い、新たな価値を創出する「知の活力」を生むことが不可欠である。多様な「知」が集うとは、属する組織の「矩」を超え、専門領域の枠にとらわれない多様な「知」が集うことであり、新たな価値を創出するとは、安全・安心の確保とWell-beingの最大化に向けた未来像を描くだけでなく、社会実装に向けた具体的な手段も見出し、社会の変革をもたらすことである。これらによって「知の活力」を生むことこそが「総合知」であり、「総合知」を推し進めることが、科学技術・イノベーションの力を高めることにつながる。

総合知とは

多様な「知」が集い、新たな価値を創出する「知の活力」を生むこと

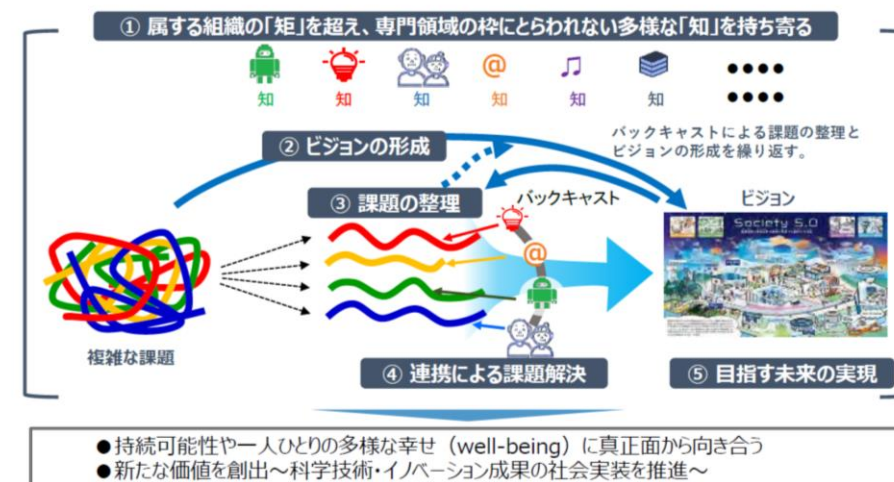
- 多様な「知」が集うとは、属する組織の「矩」を超え、専門領域の枠にとらわれない多様な「知」が集うことである。
- 新たな価値を創出するとは、安全・安心の確保とWell-beingの最大化に向けた未来像を描くだけでなく、社会実装に向けた具体的な手段も見出し、社会の変革をもたらすことである。これらによって「知の活力」を生むことこそが「総合知」であり、「総合知」を推し進めることが、科学技術・イノベーションの力を高めることにつながる。

13

3-2.「総合知」の活用イメージ、総合知により何をを目指すのか

「総合知」の活用とは、次のように考えられる。①属する組織の「矩」を超え、専門領域の枠にとらわれない多様な「知」を持ち寄り、②ビジョンを形成し、③バックキャストしつつ課題を整理し、④連携を取りながら専門知の組み合わせにより解決することで、⑤目指す未来を実現することである。さらに、この過程を通じて獲得した新たな「知」を次の場に活用することで新たな課題解決にも役立つと考えられる。ビジョンの形成や課題の整理では「知」を持ち寄る人材の多様性が不可欠であり、十分な時間をかけて対話し、議論する必要がある。また、一つ一つの課題解決では専門知が重要な役割を果たす。

「総合知」の活用は非連続な社会の変化に適応し、社会課題を解決するイノベーションの源泉ともなる。持続可能性や一人ひとりの多様な幸せ（well-being）に真正面から向き合い、「総合知」の活用により新たな価値を創出して科学技術・イノベーション成果の社会実装を推進することが、我が国の「勝ち筋」の源泉になる。



科学技術・イノベーションを、我が国の「勝ち筋」の源泉に

14



人文・社会科学への期待

問題意識②
解決方法・手段

人文・社会科学の発展なくして実現が困難な課題の例

東北大学災害科学国際研究所

- ・東日本大震災を機に学際的に災害科学を研究する拠点として2012年に発足
- ・文理の枠を超えて7部門36分野の研究者が活動

歴史学の土台があって融合する研究手法

- 津波被害に関する科学的な記録は100年程度しか遡れないが、古文書の歴史学的分析により400年前の被害状況が判明。
- こうした研究と津波シミュレーションを組み合わせることにより、津波の発生メカニズム、流速、浸水地域の分布などの推定が可能に。

完全自動運転

- ・自動運転の実用化により、交通事故低減、交通渋滞の削減等の社会的課題解決に貢献し、全ての国民が安全・安心に移動できる社会を構築

社会実装には人文系アプローチが不可欠

- 社会実装に繋げるためには、技術面での研究はもとより、法学的観点（道路関連法令の適用解釈）、心理学的観点（人の意識や行動特性を踏まえた運転支援）、哲学的観点（危機回避の優先順位（乗員、通行人））からのアプローチが不可欠。

スマートシティ

- ・ Society 5.0の先行的な社会実装の場
- ・ 都市の丸ごとのアーキテクチャの提示、新しいビジネス・サービス・価値の創出

住民のライフスタイルを含めた議論が必要

- 人が永住する街となるためには、技術の実証だけでなく、人の感性や行動、社会システム等の変革までを含めた全体最適を目指すことが必要。
- そのためには、人間や社会へのアプローチといった人文系における研究手法の発展が不可欠。

ビッグデータを活用したサービス

- ・ 様々なデータを分析し推定することで、個人に特化したカスタムメイドなサービスの提供や、社会課題の解決が可能

プライバシー保護とのバランスが重要

- 個人に関するデータの利活用とプライバシー保護との関係が重要。
- 平成29年に施行した改正個人情報保護法では、民間事業者の個人情報の取扱いについて、取得・利用時や第三者提供時等におけるルールが設けられた。

17



科学技術政策における競争的研究費

競争的研究費制度(令和3年度当初予算額・補正予算額、令和4年度当初予算額)					B4-4(単位)		
府省名	担当機関	制度名	R3年度 当初予算額 (百万円)	R3年度 補正予算額 (百万円)	R4年度 当初予算額 (百万円)	R3年度 当初予算額 (百万円)	R4年度 当初予算額 (百万円)
内閣府	食品委員会	食品健康影響評価技術研究	-	200	-	189	-
	健康・医療分野におけるムーンショット型研究開発等事業	-	-	-	5,000	-	-
	日本医療研究開発機構	ワクシン・新薬モデル研究開発事業	-	-	150,400	-	-
	小 計		-	200	155,400	189	-
総務省	本省	戦略的情報通信技術開発推進事業	1,985	-	2,354	-	-
		デジタル・デバイス分野に向けた技術等研究開発	50	-	48	-	-
		ICT産業強化的研究開発プロジェクト	4,854	1,888	4,149	-	-
		産業競争力強化基金等による研究開発	108,448	-	11,133	-	-
	防衛庁	電波の安全に関する調査及び評価技術	1,093	-	1,118	-	-
		消防防災科学技術研究推進制度	135	-	135	-	-
		Beyond 5G研究開発促進事業	-	20,000	10,000	-	-
		小 計	18,565	21,888	28,527	-	-
	日本学術振興会	国家課題対応型研究開発推進事業	23,612	3,000	24,235	-	-
		科学研究費助成事業(科研費)	237,630	11,000	237,630	-	-
		戦略的創造研究推進事業	46,895	-	44,994	-	-
		研究政策推進基金	9,799	-	10,419	-	-
文部科学省	日本学術振興会	研究政策推進基金	21,650	2,547の内数	21,274	-	-
		研究政策推進基金	2,133	-	-	-	-
		国際科学技術共同研究推進事業	2,954	-	2,988	-	-
		日本医療研究開発機構	774	-	754	-	-
	科学技術振興機構	次世代人工衛星開発推進事業	3,551	-	-	-	-
		次世代人工衛星加速化研究事業	-	-	3,399	-	-
		医療機器等研究開発推進事業	-	-	1,072	-	-
		医療・高齢社会研究推進基金等による研究開発	3,738	-	2,471	-	-
	日本医療研究開発機構	先進医療・バイオ創薬等基盤技術開発事業	1,316	-	1,465	-	-
		がん医療実用化・バイオ新薬開発プログラム(B-core)	2,481	-	2,105	-	-
厚生労働省	日本学術振興会	がん研究開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成	-	51,500	-	-	-
		課題設定による先進医療・人工知能・社会科学研究推進事業	181	-	181	-	-
		未来社会創造事業	8,700	-	9,062	-	-
		社会技術研究開発事業	-	-	1,639	-	-
	科学技術振興機構	創発的研究支援事業	40	5,280	40	-	-
		バイオ・先端医療研究開発事業	1,600	68,000	2,960	-	-
		経済安全保障重要技術実証プログラム	-	125,000	-	-	-
		海洋情報観測技術開発	81	-	81	-	-
	本省	海洋生物デジタル活用技術高度化	69	-	84	-	-
		気候変動適応戦略イニシアチブ	1,066	-	929	-	-
厚生労働省	日本学術振興会	防災対策に関する国際共同研究推進プロジェクト	378	-	378	-	-
		次世代火山研究・人材育成組合プロジェクト(次世代火山研究推進事業)	574	-	574	-	-
		情報科学を活用した社会調査プロジェクト	152	-	182	-	-
		次世代領域開発(基礎的科学研究推進基金の高度利用事業)	93	-	45	-	-
	日本医療研究開発機構	スーパーコンピュータ(算出・画像処理)活用プログラム (次世代超高速電子計算機システム利用の成果促進)	150	-	1,050	-	-
		小 計	369,870	263,780	370,710	-	-
	厚生労働省	厚生労働科学研究費補助金	6,383	180	6,383	-	-
		医療研究開発推進事業費補助金	32,290	2,709	35,306	-	-
		保健衛生医療調査等推進事業費補助金	10,636	10,165	11,280	-	-
		小 計	49,511	12,072	52,969	-	-
農林水産省	本省	イノベーション創薬化研究推進事業	3,724	-	3,724	-	-
		戦略的スマート農業技術等開発・活用	124	2,450	-	-	-
		ムーンショット型産業界研究開発事業	700	3,000	160	-	-
		農林水産省科学研究費助成事業	9	-	88	-	-
	日本学術振興会	新たな連携研究システムによる研究(農林水産政策研究調査委託費)	80	-	88	-	-
		食品に直結した産物流通の推進に関する研究(戦略的国際共同研究推進事業)	139	-	174	-	-
		農林水産省研究費補助金	2,150の内数	-	-	-	-
		小計の合計(システム構築実証技術開発・実証事業のうち農林水産研究の推進)	674	-	2,062の内数	-	-
	科学技術振興機構	農林水産分野の先端技術開発事業	674	-	674	-	-
		安全な農林水産物生産・流通のための包括的レジリエンス研究推進事業	615	-	608	-	-
農林水産省	本省	小 計	5,341	5,450	5,428	-	-
		※上記事業のうち、予算額内数としている事業は含まれていない	-	-	-	-	-
	日本学術振興会	農林水産科学研究費補助金	6,383	180	6,383	-	-
		医療研究開発推進事業費補助金	32,290	2,709	35,306	-	-
		保健衛生医療調査等推進事業費補助金	10,636	10,165	11,280	-	-
		小 計	49,511	12,072	52,969	-	-
	科学技術振興機構	イノベーション創薬化研究推進事業	3,724	-	3,724	-	-
		戦略的スマート農業技術等開発・活用	124	2,450	-	-	-
		ムーンショット型産業界研究開発事業	700	3,000	160	-	-
		農林水産省科学研究費助成事業	9	-	88	-	-

競争的研究費制度(令和3年度当初予算額・補正予算額、令和4年度当初予算額)					B4-4(単位)		
府省名	担当機関	制度名	R3年度 当初予算額 (百万円)	R3年度 補正予算額 (百万円)	R4年度 当初予算額 (百万円)	R3年度 当初予算額 (百万円)	R4年度 当初予算額 (百万円)
経済産業省	本省	成長戦略の中核企業研究開発支援事業(中核的基盤技術高度化・連携実証事業)	6,812	-	6,918	-	-
		省エネ型電子デバイス材料の開発技術の開発事業	480	-	-	-	-
		宇宙産業技術情報基盤整備研究開発事業(BERVISプロジェクト)	760	-	1,929	-	-
		石油産業生産効率化のためのハイパースペクトルセンサの研究開発事業委託費	750	-	469	-	-
	日本学術振興会	宇宙太陽光発電における無線送電技術の高度化に向けた研究開発事業委託費	250	-	350	-	-
		政府衛星データのオープン・プラットフォーム化及びデータ利便性確保推進事業	-	-	-	-	-
		製造業のデジタル化研究開発事業	600	-	-	-	-
		ロボット・先端医療研究開発事業等の推進に関する技術開発推進費	3,790	-	3,500	-	-
	科学技術振興機構	ロボット・先端医療研究開発事業等の推進に関する技術開発推進費	216	-	216	-	-
		製造業のデジタル化研究開発事業	1,000	-	1,000	-	-
経済産業省	本省	社会的課題に直面する革新的な電子技術開発支援事業	1,200	-	1,200	-	-
		高圧・汚染水・地熱・地熱利用事業	-	12,516	-	-	-
		革新的な水素研究開発等基盤構築事業	357	-	439	-	-
		地域分散型クラウド技術開発事業	-	-	-	-	-
	科学技術振興機構	革新的な水素研究開発等基盤構築事業	-	-	-	-	-
		地域分散型クラウド技術開発事業	-	-	-	-	-
		革新的な水素研究開発等基盤構築事業	-	-	-	-	-
		地域分散型クラウド技術開発事業	-	-	-	-	-
	日本学術振興会	官民による競争手続型研究開発支援事業	800	-	895	-	-
		エネルギー・環境分野の官民による競争手続型研究開発支援事業	900	-	900	-	-
経済産業省	本省	研究開発型スタートアップ支援事業	2,138	-	2,583	-	-
		医療機器等における先端的研究開発・開発体制強化事業	64	-	-	-	-
		社会実用化に向けた次世代人工知能・センシング等中核技術開発	5,800	-	5,475	-	-
		新産業創出・マテリアル・バイオ革新に向けた新技術先端研究プログラム事業(ムーンショット型研究開発推進事業)	935	-	911	-	-
	科学技術振興機構	新産業創出・マテリアル・バイオ革新に向けた新技術先端研究プログラム事業(ムーンショット型研究開発推進事業)	400	-	480	-	-
		新産業創出・マテリアル・バイオ革新に向けた新技術先端研究プログラム事業(ムーンショット型研究開発推進事業)	300	-	509	-	-
		新産業創出・マテリアル・バイオ革新に向けた新技術先端研究プログラム事業(ムーンショット型研究開発推進事業)	400	-	480	-	-
		新産業創出・マテリアル・バイオ革新に向けた新技術先端研究プログラム事業(ムーンショット型研究開発推進事業)	300	-	509	-	-
	日本学術振興会	自動車ロボティクスを活用した新たな製造サービス実証に向けた技術開発	204	-	354	-	-
		情報分野の基盤技術開発等研究開発事業(2025年以降)	77	-	-	-	-
経済産業省	本省	官民による競争手続型研究開発支援事業	2,006	-	2,220	-	-
		官民による競争手続型研究開発支援事業	2,100	-	-	-	-
		エネルギー・環境分野の中核的基盤技術開発に資する新技術先端研究プログラム	3,952	5,285	-	-	-
		エネルギー・環境分野の中核的基盤技術開発に資する新技術先端研究プログラム	1,500	1,280	-	-	-
	科学技術振興機構	製造業のデジタル化研究開発事業	2,994	2,400	-	-	-
		次世代人工知能・ロボットの中心となるインテリジェント技術開発事業	1,650	1,400	-	-	-
		製造業のデジタル化研究開発事業	570	315	-	-	-
		製造業のデジタル化研究開発事業	1,200	1,193	-	-	-
	日本学術振興会	官民による競争手続型研究開発支援事業	1,018	-	670	-	-
		製造業のデジタル化研究開発事業	2,600	-	930	-	-
経済産業省	本省	製造業のデジタル化研究開発事業	300	-	312	-	-
		製造業のデジタル化研究開発事業	-	-	-	-	-
		製造業のデジタル化研究開発事業	650	-	549	-	-
		製造業のデジタル化研究開発事業	2,284	-	2,149	-	-
	科学技術振興機構	省エネ型電子デバイス材料の開発技術の開発事業	2,149	-	2,149	-	-
		官民による競争手続型研究開発支援事業	2,149	-	2,149	-	-
		官民による競争手続型研究開発支援事業	632	-	642	-	-
		官民による競争手続型研究開発支援事業	4,000	-	-	-	-
	日本学術振興会	電気自動車用革新的基盤技術開発	2,375	-	2,500	-	-
		電気自動車用革新的基盤技術開発	1,900	-	2,232	-	-
経済産業省	本省	次世代複合材料研究開発事業	1,350	-	1,319	-	-
		次世代複合材料研究開発事業	500	-	791	-	-
		次世代複合材料研究開発事業	1,500	-	-	-	-
		次世代複合材料研究開発事業	1,500	-	-	-	-
	科学技術振興機構	超伝導電力変換システムの実証に向けた技術開発事業	1,500	-	-	-	-
		超伝導電力変換システムの実証に向けた技術開発事業	1,500	-	-	-	-
		超伝導電力変換システムの実証に向けた技術開発事業	1,500	-	-	-	-
		超伝導電力変換システムの実証に向けた技術開発事業	1,500	-	-	-	-
	日本学術振興会	超伝導電力変換システムの実証に向けた技術開発事業	1,500	-	-	-	-
		超伝導電力変換システムの実証に向けた技術開発事業	1,500	-	-	-	-
経済産業省	本省	超伝導電力変換システムの実証に向けた技術開発事業	1,500	-	-	-	-
		超伝導電力変換システムの実証に向けた技術開発事業	1,500	-	-	-	-
		超伝導電力変換システムの実証に向けた技術開発事業	1,500	-	-	-	-
		超伝導電力変換システムの実証に向けた技術開発事業	1,500	-	-	-	-
	科学技術振興機構	超伝導電力変換システムの実証に向けた技術開発事業	1,500	-	-	-	-
		超伝導電力変換システムの実証に向けた技術開発事業	1,500	-	-	-	-
		超伝導電力変換システムの実証に向けた技術開発事業	1,500	-	-	-	-
		超伝導電力変換システムの実証に向けた技術開発事業	1,500	-	-	-	-
	日本学術振興会	超伝導電力変換システムの実証に向けた技術開発事業	1,500	-	-	-	-
		超伝導電力変換システムの実証に向けた技術開発事業	1,500	-	-	-	-

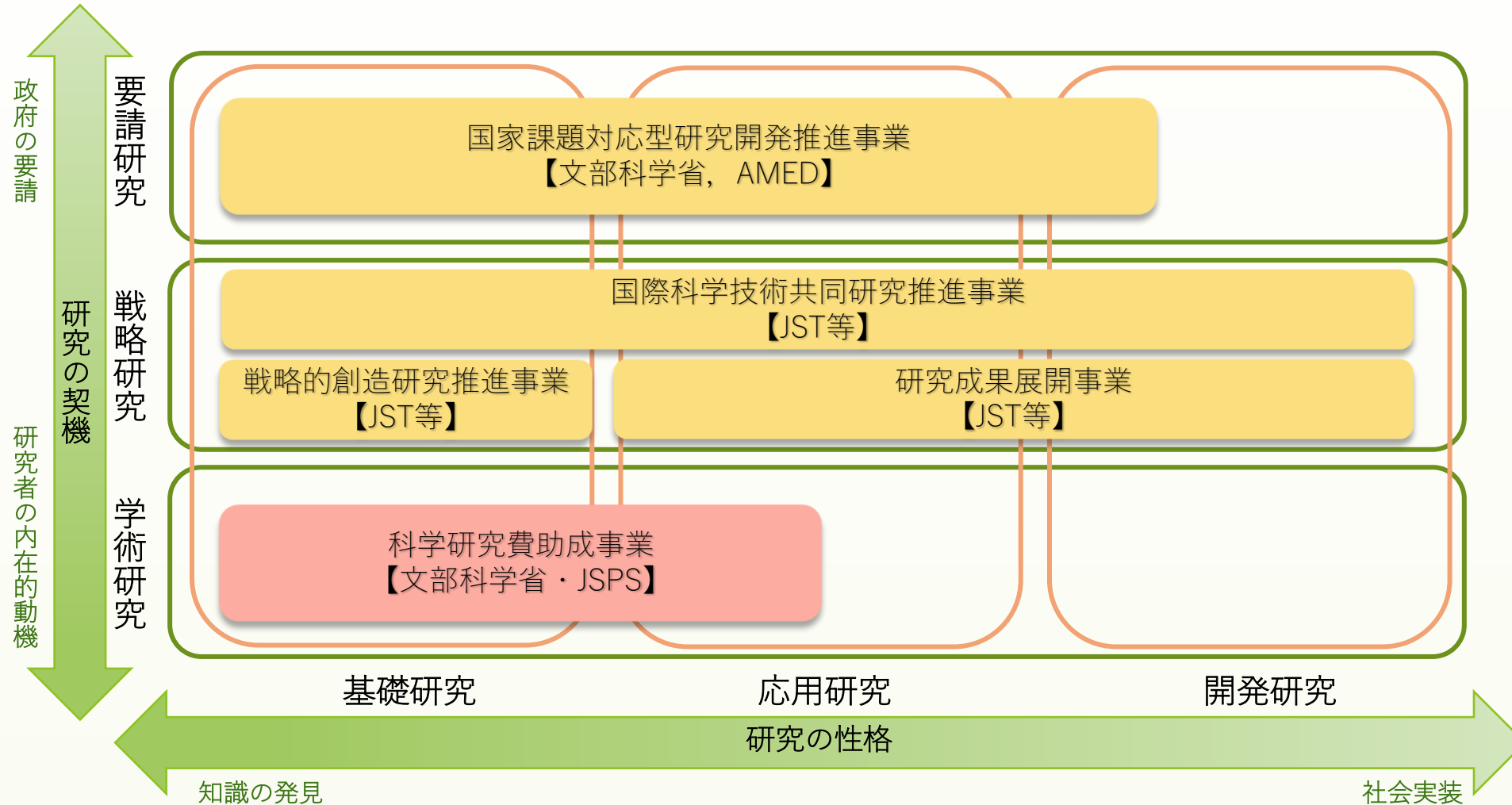
競争的研究費制度(令和3年度当初予算額・補正予算額、令和4年度当初予算額)						B4-4(単位)
府省名	担当機関	制度名	R3年度 当初予算額 (百万円)	R3年度 補正予算額 (百万円)	R4年度 当初予算額 (百万円)	R3年度 当初予算額 (百万円)
経済産業省	新エネルギー産業技術総合開発機構	水利用エネルギーを活用した水素サプライチェーン構築研究開発事業	4,750	-	3,050	-
		超伝導電力変換システムの実証に向けた技術開発事業(超伝導電力変換システムの実証に向けた技術開発事業)	3,200	-	3,080	-
		超伝導電力変換システムの実証に向けた技術開発事業(超伝導電力変換システムの実証に向けた技術開発事業)	6,670	-	7,910	-
		超伝導電力変換システムの実証に向けた技術開発事業(超伝導電力変換システムの実証に向けた技術開発事業)	7,305	-	7,305	-
		超伝導電力変換システムの実証に向けた技術開発事業(超伝導電力変換システムの実証に向けた技術開発事業)	8,000	-	7,500	-
		地熱・地熱発電や地中地熱エネルギーを活用した技術開発研究事業(地熱・地熱発電や地中地熱エネルギーを活用した技術開発研究事業)	1,670	-	1,670	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	8,280	-	6,600	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	4,187	-	5,500	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	3,300	-	3,050	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	5,100	-	7,080	-
経済産業省	新エネルギー産業技術総合開発機構	洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	1,230	-	1,350	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	16,150	-	16,950	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	900	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	110,002	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	2,080の内数	-	1,790の内数	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
経済産業省	新エネルギー産業技術総合開発機構	洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	4,000	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
経済産業省	新エネルギー産業技術総合開発機構	洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	4,000	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
経済産業省	新エネルギー産業技術総合開発機構	洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	4,000	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
経済産業省	新エネルギー産業技術総合開発機構	洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	4,000	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
経済産業省	新エネルギー産業技術総合開発機構	洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	4,000	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
経済産業省	新エネルギー産業技術総合開発機構	洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	4,000	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
経済産業省	新エネルギー産業技術総合開発機構	洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	4,000	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
経済産業省	新エネルギー産業技術総合開発機構	洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	4,000	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
経済産業省	新エネルギー産業技術総合開発機構	洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	4,000	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
経済産業省	新エネルギー産業技術総合開発機構	洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	4,000	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
経済産業省	新エネルギー産業技術総合開発機構	洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	4,000	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
経済産業省	新エネルギー産業技術総合開発機構	洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	4,000	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
経済産業省	新エネルギー産業技術総合開発機構	洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	4,000	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
経済産業省	新エネルギー産業技術総合開発機構	洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	4,000	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
経済産業省	新エネルギー産業技術総合開発機構	洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	4,000	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
経済産業省	新エネルギー産業技術総合開発機構	洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	4,000	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
経済産業省	新エネルギー産業技術総合開発機構	洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	4,000	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
経済産業省	新エネルギー産業技術総合開発機構	洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	4,000	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
経済産業省	新エネルギー産業技術総合開発機構	洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	4,000	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	-
		洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業(洋上風力発電の導入拡大に向けた技術開発研究事業)	-	-	-	

科学技術政策における競争的研究費

文部科学省	本省/日本医療研究開発機構	国家課題対応型研究開発推進事業	23, 612	3, 000	24, 325
	本省/日本学術振興会	科学研究費助成事業(科研費)	237, 650	11, 000	237, 650
	科学技術振興機構	戦略的創造研究推進事業	46, 895	-	44, 964
	日本医療研究開発機構		9, 799	-	10, 619
	科学技術振興機構	研究成果展開事業	21, 850	2, 547の内数	21, 274
	日本医療研究開発機構		2, 133		
	科学技術振興機構	国際科学技術共同研究推進事業	2, 954	-	2, 986
	日本医療研究開発機構		774	-	754
	日本医療研究開発機構	次世代がん医療創生研究事業	3, 551		
		次世代がん医療加速化研究事業	-	-	3, 399
		医療機器等研究成果展開事業	-	-	1, 072
		新興・再興感染症研究基盤創生事業	3, 738	-	2, 871
		先端のバイオ創薬等基盤技術開発事業	1, 316	-	1, 466
		ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム(B-cure) (ゲノム医療実現推進プラットフォーム事業、ゲノム研究バイオバンク事業、次世代医療研究を支えるゲノム・オミックス解析)	2, 481	-	2, 105
		ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成	-	51, 500	-
	日本学術振興会	課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業	181	-	181
		未来社会創造事業	8, 700	-	9, 062
		社会技術研究開発事業	-	-	1, 639
	科学技術振興機構	創発的研究支援事業	60	5, 280	60
		ムーンショット型研究開発事業	1, 600	68, 000	2, 960
		経済安全保障重要技術育成プログラム	-	125, 000	-
	本省	海洋情報把握技術開発	81	-	81
		海洋生物ビッグデータ活用技術高度化	89	-	84
		気候変動適応戦略イニシアチブ	1, 066	-	929
		防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト	378	-	378
		次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト(次世代火山研究推進事業)	574	-	574
		情報科学を活用した地震調査研究プロジェクト	152	-	182
		次世代領域開発(高機能演算研究基盤の高度利用事業)	93	-	45
		スーパーコンピュータ「富岳」成果創出加速プログラム (次世代超高速電子計算機システム利用の成果促進)	150	-	1, 050
		小 計 ※上記事業のうち、予算額を内数としている事業は含まれていない	369, 875	263, 780	370, 710

参考：競争的研究費制度（令和3年度当初予算額・補正予算額、令和4年度当初予算額）
https://www8.cao.go.jp/cstp/compefund/kyoukin_r3-4.pdf

科研費の位置づけ



科研費改革（2017～）

① 研究環境の劣化

大学の研究環境

→ 基盤的経費の減少

- ◆ 競争的研究費のニーズ増
- ◆ 科研費の応募件数の著増

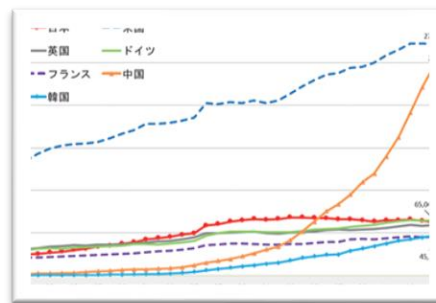
個人の研究環境

→ 研究資金、研究時間の減少

- ◆ 研究の内向き／安定志向
- ◆ 短期的リスク回避傾向



② 日本の研究競争力の低下



学術研究への現代的要請

- ◆ 挑戦性
- ◆ 融合性
- ◆ 総合性
- ◆ 国際性



- ① 審査システムの見直し：審査区分の大括り／二段階書面審査／総合審査
- ② 研究種目の見直し：挑戦的研究／若手研究／学術変革領域研究…
- ③ 柔軟かつ適正な研究費使用：基金化／調整金／重複制限の緩和…

科研費種目の構成

- 特別推進研究

新しい学術を切り拓く、格段に優れた研究成果が期待される1人又は比較的少人数の研究者で行う研究。

- 基盤研究 (S/A/B/C)

1人又は比較的少人数の研究者が行う、これまでの蓄積に基づく学問分野の深化・発展を目指す研究。

- 若手研究

若手研究者に独立して研究する機会を与えるための、1人で行う研究。

- 挑戦的研究 (開拓/萌芽)

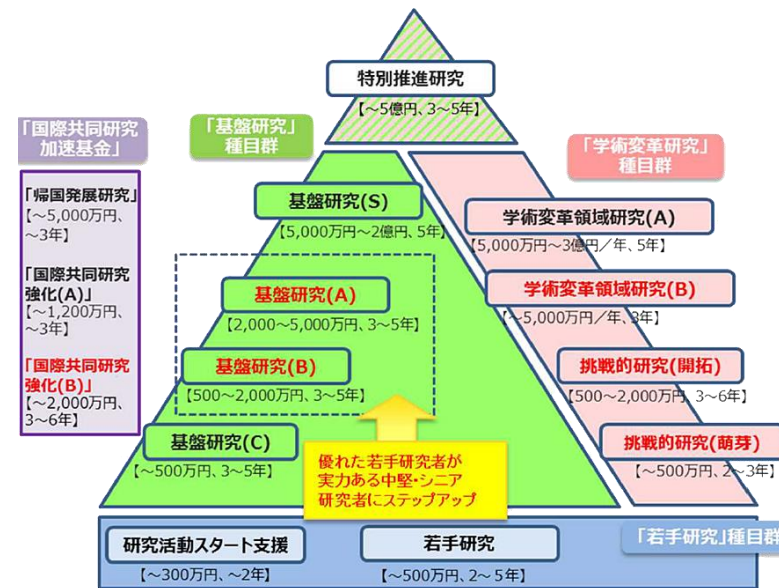
これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを志向する研究

- 学術変革領域研究 (A/B/公募)

学問分野に新たな変革や転換をもたらし、既存の学問分野の枠に収まらない新興・融合領域の創成を目指す研究。

- 国際共同研究強化 (A/B)

基課題の研究を格段に発展させ、国際的に活躍できる研究者の養成を目指す。国際的なネットワークの中で、中核的な役割を担うことにより、国際共同研究の基盤の構築や更なる強化を図る。



若手研究者の定義：博士の学位取得後8年未満
(※ 博士未取得者への経過措置は、今年度は廃止)



重複制限一覧表の読み取り

甲欄				乙欄										国際共同研究強化 (B) ※3						
				特別推進研究	基盤研究 S	基盤研究 A	基盤研究 B	基盤研究 C	若手研究 (1回目)	若手研究 (2回目) ※1	新学術領域研究(研究領域提案型)	学術変革領域研究 (A) ※2	学術変革領域研究 (B) ※2			挑戦的研究				
						一般	一般	一般				公募研究	総括班	計画研究	総括班	計画研究	開拓	萌芽		
				新規	新規	新規	新規	新規	新規	新規	新規	新規	新規	新規	新規	新規	新規	新規	新規	新規
				代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者
基盤研究 B	一般	新規	代表者	□	×	×	—	×	×	■										
		継続	代表者	□	▲	▲	—	▲	▲	▲										

【基盤 B】に採択され、次年度も受給を「継続」

【基盤研究 B】 継続中
【特別推進研究】 新規応募
↓
重複応募 可能
採択されれば
【基盤 B】を中止して
【特別推進研究】を実施

【基盤 B】 継続中
【基盤 B】 さらに新規応募
↓
応募不可
1つの種目は1つの課題しか同時に受給できない

【基盤 B】 継続中
【挑戦的研究（開拓）】 新規応募
↓
重複応募・重複受給 可能
採択されれば【基盤 B】と同時に実施

他の空欄マスも同様

- 空欄 双方とも応募・受給可
- 同一种目 (1課題のみ応募可)
- × 1種目のみ応募可
- ▲ 乙欄の種目に応募不可 (甲欄の種目を継続)
- 双方とも応募可
双方とも採択の場合は甲欄種目のみ実施
- 双方とも応募可
双方とも採択の場合は乙欄種目のみ実施
- ★ 原則として重複不可 (明らかに異なる2つの研究を同一年度内に行う必要がある場合を除く)



評価ポイントを踏まえた 研究計画調書の作成戦略



研究計画調書作成に当たって留意すること

科研費は、研究者の自由な発想に基づく全ての分野にわたる研究を格段に発展させることを目的とし、豊かな社会発展の基盤となる独創的・先駆的な研究を支援します。

科研費では、応募者が自ら自由に課題設定を行うため、提案課題の学術的意義に加え、独自性や創造性が重要な評価ポイントになります。このため、「基盤研究」及び「若手研究」の研究計画調書様式では、**学術の潮流や新たな展開などどのような「学術的背景」の下でどのような「学術的『問い』」を設定したか**、当該課題の「学術的独自性や創造性」、「着想に至った経緯」、「国内外の研究動向と本研究の位置付け」はどのようなものか、などの記述を求めています。

審査においては、総合審査又は二段階書面審査における審査委員間の議論・意見交換等により**研究課題の核心**を掴み、学術的な意義や独自性、創造性など**学術的重要性を評価する**とともに、**実行可能性並びに研究遂行能力も含めて総合的に判断**します。

科研費に応募するに当たっては、上記に留意の上、公募要領や審査基準、様式の説明書き等を十分に確認し、**審査委員に学術的重要性等が適切に伝わるよう**に研究計画調書を作成してください。



研究計画調書の記載指示

1 研究目的、研究方法など

本研究計画調書は「小区分」の審査区分で審査されます。記述に当たっては、「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」（公募要領18頁参照）を参考にすること。

本研究の目的と方法などについて、4頁以内で記述すること。

冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述し、本文には、(1)本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」、(2)本研究の目的および学術的独自性と創造性、(3)本研究の着想に至った経緯や、関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ、(4)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか、(5)本研究の目的を達成するための準備状況、について具体的かつ明確に記述すること。

本研究を研究分担者とともに行う場合は、研究代表者、研究分担者の具体的な役割を記述すること。

2 応募者の研究遂行能力及び研究環境

応募者（研究代表者、研究分担者）の研究計画の実行可能性を示すため、(1)これまでの研究活動、(2)研究環境（研究遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等を含む）について2頁以内で記述すること。

「(1)これまでの研究活動」の記述には、研究活動を中断していた期間がある場合にはその説明などを含めてもよい。

記載指示の構成意図 (旧様式)

応募する研究計画において何をしようとしているのか、その全体像を明らかにする

本研究の学術的背景、
研究課題の核心をなす学術的「問い」

本研究の目的及び
学術的独自性と創造性

本研究で何をどのように、
どこまで明らかにしようとするのか

審査委員が研究計画についてより理解を深めるため、当該研究の特色について記述

本研究の着想に至った経緯および準備状況

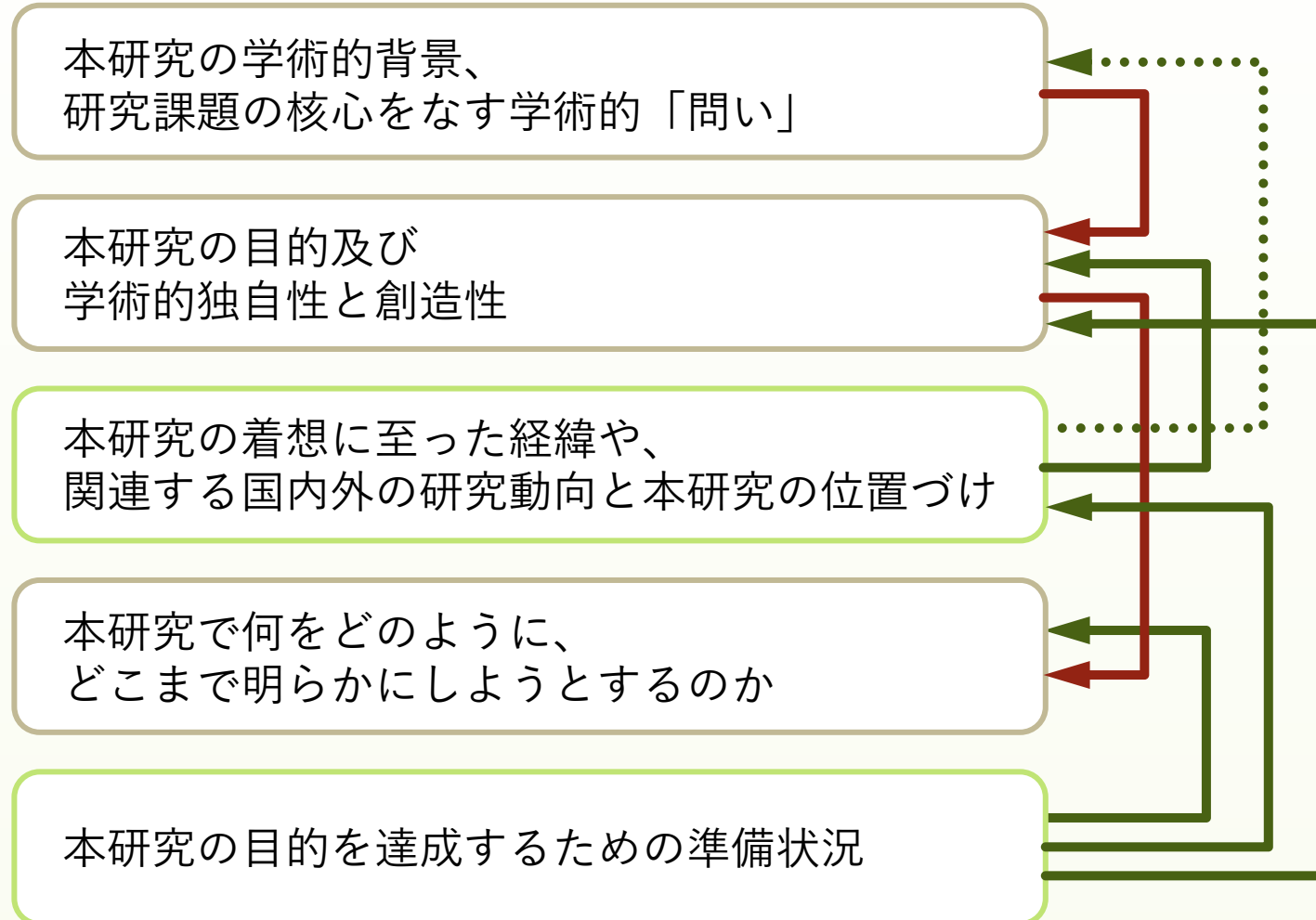
関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ

【1. 研究目的、研究方法など】：新旧比較

R3計画書（旧様式）	R4計画書（新様式）
1. 研究目的、研究方法など（3頁） (1) 本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」 (2) 本研究の目的および学術的独自性と創造性 (3) 本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか	1. 研究目的、研究方法など（4頁） (1) 本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」 (2) 本研究の目的及び学術的独自性と創造性 (3) 本研究の着想に至った経緯や、関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ (4) 本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか (5) 本研究の目的を達成するための準備状況
2. 本研究の着想に至った経緯など（1頁） (1) 本研究の着想に至った経緯と準備状況 (2) 関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ	

新しい記載指示の構成（令和3年度申請から）

応募する研究計画において何をしようとしているのか、その全体像を明らかにする



研究計画調書の要求事項の確認

冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述し、**本文には、**

- (1)本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」
- (2)本研究の目的及び学術的独自性と創造性
- (3)本研究の着想に至った経緯や、関連する国内外の研究動向と
本研究の位置づけ
- (4)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか
- (5)本研究の目的を達成するための準備状況

について具体的かつ明確に記述すること。

- (1)から(5)の順で記載せよ、とは書かれていない。
- (1)から(5)を見出しにして記載せよ、とも書いていない。
- ※ ただし、これらの事項については漏れなく記載し、
審査委員が漏れなく記載されていると把握できることが好ましい。

評価要素（基盤研究の例）

（１）研究課題の学術的重要性

●学術的に見て、推進すべき重要な研究課題であるか。●研究課題の核心をなす学術的「問い」は明確であり、学術的独自性や創造性が認められるか。●研究計画の着想に至る経緯や、関連する国内外の研究動向と研究の位置づけは明確であるか。●本研究課題の遂行によって、より広い学術、科学技術あるいは社会などへの波及効果が期待できるか。

（２）研究方法の妥当性

●研究目的を達成するため、研究方法等は具体的かつ適切であるか。また、研究経費は研究計画と整合性がとれたものとなっているか。●研究目的を達成するための準備状況は適切であるか。

（３）研究遂行能力及び研究環境の適切性

●これまでの研究活動等から見て、研究計画に対する十分な遂行能力を有しているか。●研究計画の遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等、研究環境は整っているか。



研究計画調書の全体概念

研究計画調書

学術分野・学術領域の全体像

学術的背景

- ✓ 社会的背景・先行研究
- ✓ 研究分野の通念
- ✓ 課題・問題点

他者の先行研究

自身の研究

着想

研究計画

研究A・研究B

目的

国内外の研究動向
他の研究者による別のアプローチ

学術的波及

学術的問い
(≠研究の目的)

社会的課題
(人文社会系)

将来の研究
(未定部分)

将来の研究
(未定部分)

研究の目的

この研究では、“ここまで”を
明らかにすることを目的とする。

研究内容・方法

目的を達成する為に、Aや
Bの方法(論)で研究を実施

目的を達成するために…

- ✓ 何を
- ✓ どのように
- ✓ どのくらい(量)
- ✓ どこまで

What, Where, How to

- ✓ 意図
- ✓ 理由
- ✓ 妥当性

Why ?

「問い」 - 「目的」 - 「方法」 の構成例

審査区分	学術的「問い」	研究目的	研究方法
地域環境工学および農村計画学関連	畝などの地表面の構造や土の物質移動特性の空間的なばらつき	土壌物質動態モデルによる根の吸水・吸収の精緻な計算と、作物の成長への定量的影響の高度な推定が可能な統合型作物成長モデルを構築する	●土壌中の水分・溶質動態解析モデルと群落光合成モデルを動的に結合
生物物理学関連	細胞の機能発現に深く関わる多量体や超分子構造の機能的役割	二量体の列を基本構造をとる光受容体膜蛋白質であるロドプシン(Rh)の機能解析	●シグナル伝達分子であるG蛋白質トランスデュースン(Gt)との相互作用を高速AFMで観察するとともに、この過程を分子動力学モデルで解析する
生態学および環境学関連	食植性昆虫は著しく高い多様性	植物と昆虫の系統関係を照合させつつ、内在性食植性昆虫の起源・寄主転換・多様化の過程を考察する	●潜葉虫寄生系と絶対送粉共生系双方に焦点を当て、コケ以上の日本産植物すべてを対象にした寄主植物利用様式の膨大なデータベースを完成させる
内科学一般関連	ヒトの体内でどのような過程を経て薬剤耐性菌が発生するのか	薬剤耐性菌発生の抑制に寄与する因子の探索	●ヒトの体内で、抗菌薬に感受性を示す細菌が時間経過とともに薬剤耐性菌へと進化する過程を詳細に解析
整形外科学関連	骨微小環境および原発巣環境を反映したin vitroモデルの開発	発現量に差がある遺伝子を抽出し、原発巣が骨転移巣に与える液性因子の有無を検討	●骨微小環境モデルと原発巣環境モデルを用いてARAT治療前後の1細胞RNAシーケンスによるクラスタリング解析を実施 ●アビラテロン、デュタステリド併用治療の治療効果・安全性の確認を行う。

研究遂行能力及研究環境の適切性

「業績欄」に関する議論

「研究業績」欄が、応募者にとって「できるだけ多くの業績でスペースを埋めなければ審査において不利になるのではないか」といった誤った認識がある。

『科研費の審査に関し、あたかも業績偏重主義であるかのような認識を応募者その他に与える可能性については、できるだけ是正を試みるべき』

『研究遂行能力を評価するために研究業績等の確認は必要だが、研究業績等の「書かせ方」については一考の余地がある。』

研究遂行能力のアピール方法

- ★ 評価対象は、業績数ではなく研究遂行能力。
- ★ 申請課題の完遂に寄与できる人物イメージが大切。

アピールポイント

●研究業績（申請内容の関連研究を優先する） ●招聘・受賞などの他者評価
●獲得した競争的研究費とその成果 ●知財 ●何に取り組み、どのような成果を挙げてきたのか ●研究体制（人員、役割、技能、環境、装置、資料）に関する補足、説明強化 ●組織管理

パターン1：研究テーマ毎に記載
パターン2：主要な論文毎に記載
パターン3：研究グループ毎に記載



時系列的ストーリー構成
構造的ストーリー構成

挑戦的研究への対応

様式S－4 2－2 研究計画調書（添付ファイル項目）

挑戦的研究（萌芽） 1

1 研究目的及び研究方法、応募者の研究遂行能力

本研究種目は審査区分表の「中区分」で審査されます。記述に当たっては広い分野構成で多角的視点から審査が行われることに注意すること。

- ① 本研究の目的
- ② その研究目的を達成するための研究方法（研究体制（「研究組織」にある研究者及び研究協力者のそれぞれの役割）を含む）
- ③ 応募者の研究遂行能力（これまでの研究活動の具体的な内容等。必要に応じて今回の研究構想に直接関係しないものを含めてもよい。）

について、2頁以内で焦点を絞って具体的かつ明確に記述すること。

2 挑戦的研究としての意義（本研究種目に応募する理由）

本研究種目は、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させる潜在性を有する挑戦的研究を募集するものです。

- ① これまでの研究活動を踏まえ、この研究構想に至った背景と経緯
- ② 学術の現状を踏まえ、本研究構想が挑戦的研究としてどのような意義を有するか、探索的性質の強い、あるいは芽生え期の研究計画である場合には挑戦的研究としての可能性を有するか

について1頁以内で記述すること。



挑戦性の概念

「挑戦的研究」では、「新しい原理や学理の発見・追求」、「学術の概念や体系の見直し」、「研究のブレークスルーをもたらすような、大きな発想の転換や斬新な方法論等の導入」といったこれまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させる潜在性を有している研究課題を対象としています。

(令和3年度 挑戦的研究(開拓・萌芽)の書面審査における評価基準等)

米国科学審議会(National Science Board, NSB)の定義する「トランスフォーマティブ・リサーチ(TFR)」は、我々の重要な既存の科学的・工学的概念に関する理解を劇的に変える、あるいは新たな科学・工学のパラダイムや分野・領域の創造を導く潜在性を持つ発想に基づく研究と定義される。そしてそのような研究はまた、現行の理解に対する挑戦や新たなフロンティアへの筋道ということにより性格づけられる。

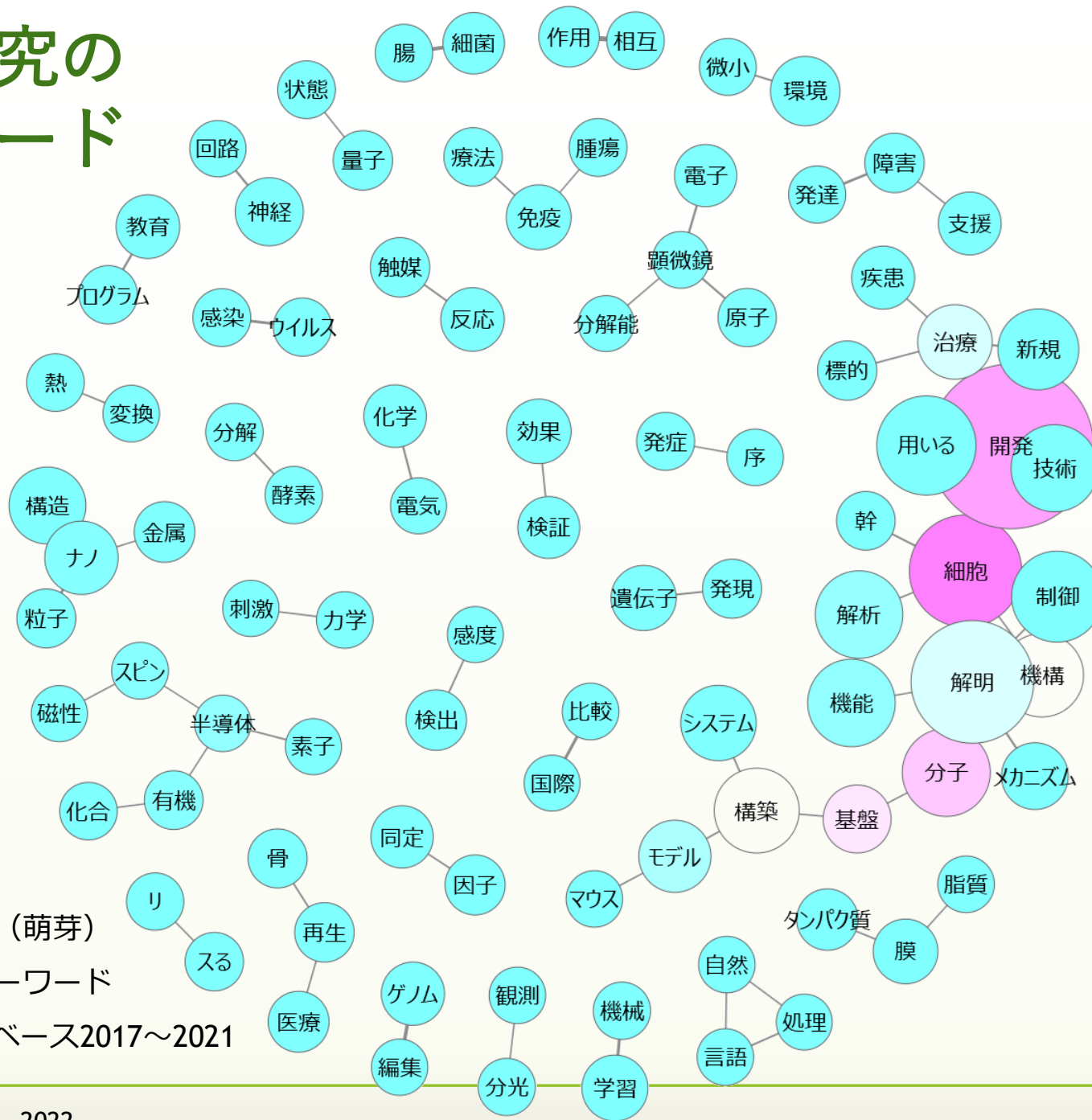
TFRはa.b.2つの基準で評価する。

- a. 当該分野あるいは異なる分野を通じた知識・理解の高度化(知的メリット)
- b. 社会的な利益や期待される社会的アウトカムの達成(より幅広いインパクト)

(科研費による挑戦的な研究に対する支援強化について)



挑戦的研究の キーワード



挑戦的研究（開拓）（萌芽）

採択課題 課題名キーワード

対象：KAKENデータベース2017～2021



研究計画調書の記載事項（挑戦的研究）

萌芽

開拓

事実	①本研究の目的	①本研究の目的
	②その研究目的を達成するための研究方法	②その研究目的を達成するための研究方法
	③応募者の研究遂行能力	③本研究を実施するために使用する 研究施設・設備・研究資料等、 現在の研究環境の状況
意味・ 解釈	①これまでの研究活動を踏まえ、 この研究構想に至った背景と経緯	①これまでの研究活動を踏まえ、 この研究構想に至った背景と経緯
	②学術の現状を踏まえ、本研究構想が挑戦 的研究としてどのような意義を有するか 探索的性質の強い、あるいは芽生え期の 研究計画である場合には挑戦的研究とし ての可能性を有するか	②学術の現状を踏まえ、本研究構想が挑戦 的研究としてどのような意義を有するか
事実		応募者の研究遂行能力を示すため、 これまでの研究活動の具体的な内容等

研究計画調書の記載事項（挑戦的研究）

挑戦的研究としての意義（本研究種目に応募する理由）

①これまでの研究活動を踏まえ、
この研究構想に至った背景と経緯



「学術的背景」ではなく、着想の経緯を書く。
申請者が行ってきた研究を中心に説明する。
申請者の基盤研究の系統と、挑戦的研究の系統の
間にある思想・論理の違いを明確にする。

②学術の現状を踏まえ、本研究構想が挑戦
的研究としてどのような意義を有するか

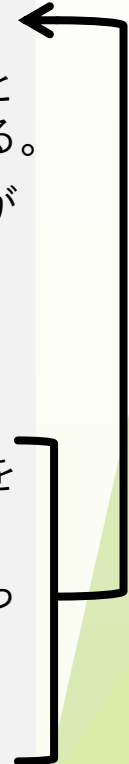


周辺（関連）研究の延長線上で実現可能な成果と
申請者が提案する研究で得られる成果を比較する。
中区分に含まれる学術領域において、研究成果が
「どのように利用されるか」を明確にする。
新たな研究領域を創成できるのであれば、その
発展（新規参入）の期待度を示す。

探索的性質の強い、あるいは芽生え期の
研究計画である場合には挑戦的研究とし
ての可能性を有するか



多数の周辺事象（証拠）と、提案課題の関連性を
説明する。
申請者の提案内容が既存の学術領域（学派）から
価値を認められる以前の段階である要因を示す。
（挑戦的研究とする必然性）



研究計画調書のブラッシュアップ



審査結果の再確認

研究種目名	20XX度 基盤研究(C) (一般)			
小区分	47010 薬系化学および創薬化学関連			
研究課題名	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○の開発			

ご応募いただいた研究種目・分科・細目における上記研究課題の審査結果は次のとおりでした。

		応募件数	採択件数	採択率
研究種目名	基盤研究(C) (一般)	43,587件	12,175件	27.9%
小区分	47010 薬系化学および創薬化学関連	100件	30件	30.0%

基盤研究 (C) 一般は、2段階書面審査を実施しており、4名の同一の審査委員が、個々の研究課題について2段階に渡り書面審査を実施し採択研究課題が決定されます。

記

1. 審査区分における採択されなかった研究課題全体の中での、書面審査の総合評価に基づくおおよその順位

あなたのおおよその準備は「B」でした。

(参考1) おおよその順位

A	審査区分における採択されなかった研究課題全体の中で、上位20%に位置していた
B	審査区分における採択されなかった研究課題全体の中で、上位21%?50%に位置していた
C	審査区分における採択されなかった研究課題全体の中で、上位50%に至らなかった

2. 書面審査における評価要素ごとの評価結果

1段階目の審査の各評価要素については、4段階の絶対評価により審査を行っています。あなたの評価要素毎の審査結果は次の通りでした。

審査では、総合評価に基づき採否が決定されます。審査にあたり、高い総合評価を付す研究課題は、必ずしも、全ての個別要素において高い評価を得る必要はない旨、評価基準等で示されています。

(1) 【評価要素ごとの結果】

あなたの研究課題の平均点及び当該審査区分において採択された研究課題の平均点

評価要素	あなたの平均点	採択課題の平均点
①研究課題の学術的重要性	2.75	3.40
②研究方法の妥当性	3.25	3.40
③研究遂行能力及び研究環境の適切性	3.00	3.40

※当該審査区分に採択課題がない場合は、採択課題の平均点は「0.00」と表示されます。

(参考2) ①～④の評価基準

評価区分	評価基準
4	優れている
3	良好である
2	やや不十分である
1	不十分である

(2) 【審査の際「2 (やや不十分である)」又は「1 (不十分である)」と判断した項目 (所見)】

評価「2 (やや不十分である)」又は「1 (不十分である)」が付された評価要素については、そのように評価した審査委員の数を項目ごとに「*」で示しています。(最大4個)

評価要素	項目	審査員の数
①研究課題の学術的重要性	• 学術的に見て、推進すべき重要な研究課題であるか	*
	• 研究課題の核心をなす学術的「問い」は明確であり、学術的独自性や創造性が認められるか	**
	• 研究計画の着想に至る経緯や、関連する国内外の研究動向と研究の位置付けは明確であるか	
	• 本研究課題の遂行によって、より広い学術、科学技術あるいは社会などへの波及効果が期待できるか	
②研究方法の妥当性	• 研究目的を達成するため、研究方法等は具体的かつ適切であるか。また、研究経費は研究計画と整合性が取れたものとなっているか	
	• 研究目的を達成するための準備状況は適切であるか	
③研究遂行能力及び研究環境の適切性	• これまでの研究活動等から見て、研究計画に対する十分な遂行能力を有しているか	
	• 研究計画の遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等、研究環境は整っているか	



審査結果の再確認（評定要素）

2. 書面審査における評定要素ごとの評価結果

1段階目の審査の各評定要素については、4段階の絶対評価により審査を行っています。あなたの評定要素毎の審査結果は次の通りでした。

審査では、総合評点に基づき採否が決定されます。審査にあたり、高い総合評点を付す研究課題は、必ずしも、全ての個別要素において高い評価を得る必要はない旨、評定基準等で示されています。

(1) 【評定要素ごとの結果】

あなたの研究課題の平均点及び当該審査区分において採択された研究課題の平均点

評定要素	あなたの平均点	採択課題の平均点
① 研究課題の学術的重要性	2.75	3.40
② 研究方法の妥当性	3.25	3.40
③ 研究遂行能力及び研究環境の適切性	3.00	3.40

※当該審査区分に採択課題がない場合は、採択課題の平均点は「0.00」と表示されます。

（参考2）①～④の評定基準

評点区分	評定基準
4	優れている
3	良好である
2	やや不十分である
1	不十分である

審査結果の再確認（所見）

(2)【審査の際「2（やや不十分である）」又は「1（不十分である）」と判断した項目（所見）】

評点「2（やや不十分である）」又は「1（不十分である）」が付された評定要素については、そのように評価した審査委員の数を項目ごとに「*」で示しています。（最大4個）

評定要素	項目	審査員の数
① 研究課題の学術的重要性	• 学術的に見て、推進すべき重要な研究課題であるか	*
	• 研究課題の核心をなす学術的「問い」は明確であり、学術的独自性や創造性が認められるか	* *
	• 研究計画の着想に至る経緯や、関連する国内外の研究動向と研究の位置付けは明確であるか	
	• 本研究課題の遂行によって、より広い学術、科学技術あるいは社会などへの波及効果が期待できるか	
② 研究方法の妥当性	• 研究目的を達成するため、研究方法等は具体的かつ適切であるか。また、研究経費は研究計画と整合性が取れたものとなっているか	
	• 研究目的を達成するための準備状況は適切であるか	
③ 研究遂行能力及び研究環境の適切性	• これまでの研究活動等から見て、研究計画に対する十分な遂行能力を有しているか	
	• 研究計画の遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等、研究環境は整っているか	

3. その他の評価項目の評定結果

研究経費の妥当性について

「研究経費の内容に問題がある」と評定した審査委員はいませんでした。

4. 留意事項

人権の保護及び法令等の遵守を必要とする研究課題の適切性について

「法令遵守等の手続き・対策等に不十分な点が見受けられる」と指摘した審査委員はいませんでした。



審査結果の確認表(基盤研究(C)、若手研究等：審査委員4名)

平均点	* の数	審査委員点数			
		I	II	III	IV
4	0	4	4	4	4
3.75	0	4	4	4	3
3.5	1	4	4	4	2
3.5	0	4	4	3	3
3.25	1	4	4	4	1
3.25	1	4	4	3	2
3.25	0	4	3	3	3
3	2	4	4	2	2
3	1	4	4	3	1
3	1	4	3	3	2
3	0	3	3	3	3

平均点	* の数	審査委員点数			
		I	II	III	IV
2.75	2	4	4	2	1
2.75	2	4	3	2	2
2.75	1	4	3	3	1
2.75	1	3	3	3	2
2.5	3	4	2	2	2
2.5	2	4	4	1	1
2.5	2	4	3	2	1
2.5	2	3	3	2	2
2.5	1	3	3	3	1
2.25	3	4	2	2	1
2.25	3	3	2	2	2
2.25	2	4	3	1	1

平均点	* の数	審査委員点数			
		I	II	III	IV
2.25	2	3	3	2	1
2	4	2	2	2	2
2	3	4	2	1	1
2	3	3	2	2	1
2	2	3	3	1	1
1.75	4	2	2	2	1
1.75	3	4	1	1	1
1.75	3	3	2	1	1
1.5	4	2	2	1	1
1.5	3	3	1	1	1
1.25	4	2	1	1	1
1	4	1	1	1	1

審査結果の確認表(基盤研究(B)等：審査委員6名)

平均点	*の数	各審査委員点数					
		I	II	III	IV	V	VI
4	0	4	4	4	4	4	4
3.83	0	4	4	4	4	4	3
3.67	1	4	4	4	4	4	2
3.67	0	4	4	4	4	3	3
3.5	1	4	4	4	4	3	2
3.5	1	4	4	4	4	4	1
3.5	0	4	4	4	3	3	3
3.33	1	4	4	4	3	3	2
3.33	1	4	4	4	4	3	1
3.33	0	4	4	3	3	3	3
3.17	2	4	4	4	3	2	2
3.17	1	4	4	3	3	3	2
3.17	1	4	4	4	3	3	1
3.17	0	4	3	3	3	3	3
3	2	4	4	3	3	2	2
3	2	4	4	4	3	2	1
3	1	4	3	3	3	3	2

平均点	*の数	各審査委員点数					
		I	II	III	IV	V	VI
3	1	4	4	3	3	3	1
3	0	3	3	3	3	3	3
2.83	3	4	4	3	2	2	2
2.83	2	4	3	3	3	2	2
2.83	2	4	4	3	3	2	1
2.83	1	3	3	3	3	3	2
2.83	1	4	3	3	3	3	1
2.67	3	4	3	3	2	2	2
2.67	3	4	4	3	2	2	1
2.67	2	3	3	3	3	2	2
2.67	2	4	3	3	3	2	1
2.67	1	3	3	3	3	3	1
2.5	4	4	3	2	2	2	2
2.5	3	3	3	3	2	2	2
2.5	3	4	4	3	2	1	1
2.5	3	4	3	3	2	2	1
2.5	2	3	3	3	3	2	1

平均点	*の数	各審査委員点数					
		I	II	III	IV	V	VI
2.33	5	4	2	2	2	2	2
2.33	4	3	3	2	2	2	2
2.33	4	4	3	2	2	2	1
2.33	3	4	4	3	1	1	1
2.33	3	4	3	3	2	1	1
2.33	3	3	3	3	2	2	1
2.17	5	3	2	2	2	2	2
2.17	5	4	2	2	2	2	1
2.17	4	4	3	2	2	1	1
2.17	4	3	3	2	2	2	1
2.17	3	4	3	3	1	1	1
2.17	3	3	3	3	2	1	1
2	6	2	2	2	2	2	2
2	5	4	2	2	2	1	1
2	5	3	2	2	2	2	1
2	4	4	3	2	1	1	1
2	4	3	3	2	2	1	1

平均点	*の数	各審査委員点数					
		I	II	III	IV	V	VI
2	3	3	3	3	1	1	1
1.83	6	2	2	2	2	2	1
1.83	5	4	2	2	1	1	1
1.83	5	3	2	2	2	1	1
1.83	4	4	3	1	1	1	1
1.83	4	3	3	2	1	1	1
1.67	6	2	2	2	2	1	1
1.67	5	4	2	1	1	1	1
1.67	5	3	2	2	1	1	1
1.67	4	3	3	1	1	1	1
1.5	6	2	2	2	1	1	1
1.5	5	4	1	1	1	1	1
1.5	5	3	2	1	1	1	1
1.33	6	2	2	1	1	1	1
1.33	5	3	1	1	1	1	1
1.17	6	2	1	1	1	1	1
1	6	1	1	1	1	1	1

Kakenデータベースの活用

The screenshot shows the KAKEN homepage with the following sections:

- KAKEN** logo and navigation links: 研究課題をさがす, 研究者をさがす, KAKENの使い方, 日本語.
- KAKEN** 研究課題をさがす (Science Research Grant Success Database).
- 科学研究費助成事業データベース** (Science Research Grant Success Database).
- フリーワード** search bar with a **検索** button.
- 研究課題名** and **研究課題/領域番号** input fields.
- 研究課題種別** (Research Topic Type) dropdown menu.
- 研究種目** (Research Category) dropdown menu.
- 配分区分** (Distribution Category) dropdown menu.
- 審査区分/研究分野** (Review Category/Research Field) dropdown menu.
- 研究機関** (Research Institution) dropdown menu.
- 研究期間 (年度)** (Research Period (Year)) dropdown menu.
- 総配分額** (Total Budget) dropdown menu.
- 研究課題ステータス** (Research Topic Status) dropdown menu.
- キーワード** (Keywords) input field.
- 研究者情報** (Researcher Information) section with fields for **姓名** (Name), **所属機関** (Affiliation), and **研究者番号** (Researcher Number).
- 報告書情報** (Report Information) section with fields for **報告書/評価種別** (Report/Evaluation Type) and **報告書/評価内容** (Report/Evaluation Content).

The screenshot shows the KAKEN search results page with the following sections:

- KAKEN** logo and navigation links: 研究課題をさがす, 研究者をさがす, KAKENの使い方, 日本語.
- フリーワード** search bar with a **検索** button.
- 絞り込み** (Filter) section with checkboxes for **研究種目** (Research Category), **配分区分** (Distribution Category), **研究機関** (Research Institution), **研究課題種別** (Research Topic Type), **研究期間 (年度)** (Research Period (Year)), and **総配分額** (Total Budget).
- 検索結果: 103件 / 審査区分/研究分野: 小区分01010: 哲学および倫理学関連** (Search Results: 103 items / Review Category/Research Field: Sub-category 01010: Philosophy and Ethics Related).
- 研究課題** (Research Topic) table with columns: **研究種目** (Research Category), **審査区分** (Review Category), **研究機関** (Research Institution), **研究代表者** (Research Representative), **研究期間 (年度)** (Research Period (Year)), **キーワード** (Keywords), and **研究開始時の研究の概要** (Summary of Research at Start).
- 研究課題** (Research Topic) table with columns: **研究種目** (Research Category), **審査区分** (Review Category), **研究機関** (Research Institution), **研究代表者** (Research Representative), **研究期間 (年度)** (Research Period (Year)), **キーワード** (Keywords), and **研究開始時の研究の概要** (Summary of Research at Start).



研究計画調書の評定要素の細分化

評定要素	項目	対応する要素
研究課題の学術的重要性	学術的重要性	広範囲への影響力（国際性）
		学際性
	明確な学術的「問い」、独自性・創造性	高次元の問いと一貫性
		ブレークスルーへの期待
	着想・研究動向・位置づけの明確さ	研究動向に照らした重要性
		社会的な課題との関係
研究方法の妥当性	波及効果	研究成果の学術的利用価値
		研究成果の社会実装（実用可能性）
	目的の明確さ、研究方法の具体性・適切性	目標設定の妥当性
		計画/手法の説得力
研究遂行能力及び研究環境の適切性	準備状況の適切さ	堅実性
		専門性・研究の前提となる実績
	遂行能力	高度な設備・情報
		人的ネットワーク

研究計画調書の15要素評価（Ⅰ）

要素名	要素の定義
1.広範囲への影響力 （国際性）	発表済み英文査読論文や海外での学会発表実績を評価する。また今後の英文査読論文の発表予定を評価する。関連研究者の国際的な地図的分布を考慮する。
2.学際性	多分野の研究者からなる体制、異分野の知見・技術・概念等の活用を評価する。
3.高次元の問いと 一貫性	研究期間中に達成できる目的と、目的よりも抽象度の高い大局的な「問い」の設定のバランスを評価する。「問い」の学術体系上の位置づけも含め、「問い」「目的」「目標」「方法」の整合性を重視する
4.ブレークスルーへの 期待	学術的・技術的なブレークスルーの期待値を評価する。 ● 学術的： 新分野の創出、教科書の新しい項目を生み出せるか ● 技術的： 単なるレベルアップではなく、「不可能」が「可能」になるか
5.研究動向に照らした 重要性	研究目的の周辺動向を整理し、その学術領域に対する貢献が見られるかを評価する。単に現状を描くのみではなく、学術的空白部分の描写とその空白を埋める意義を示す。

研究計画調書の15要素評価（II）

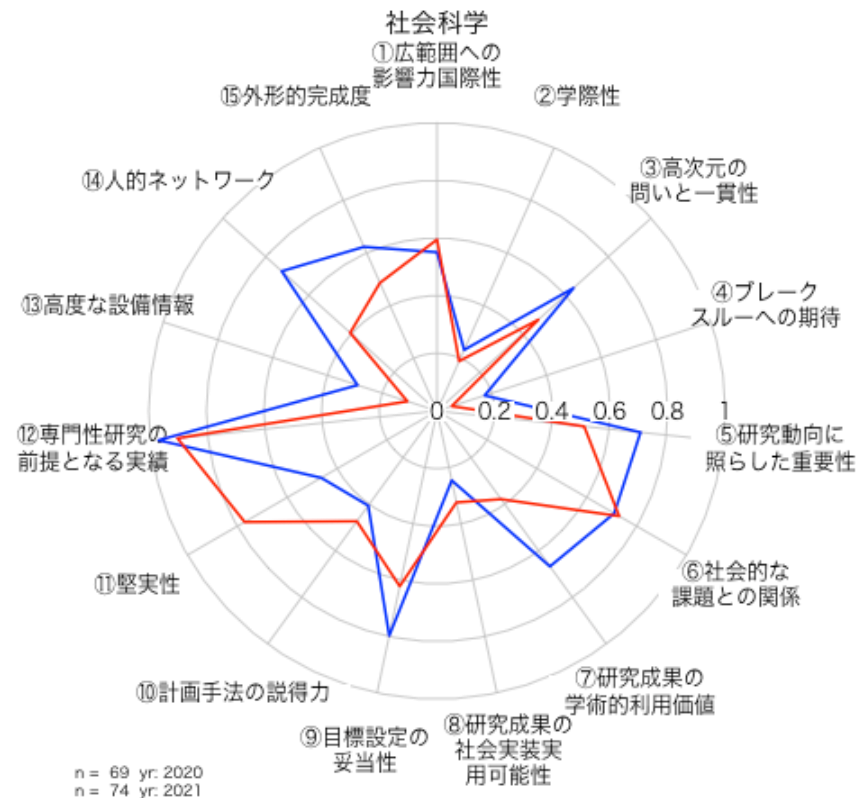
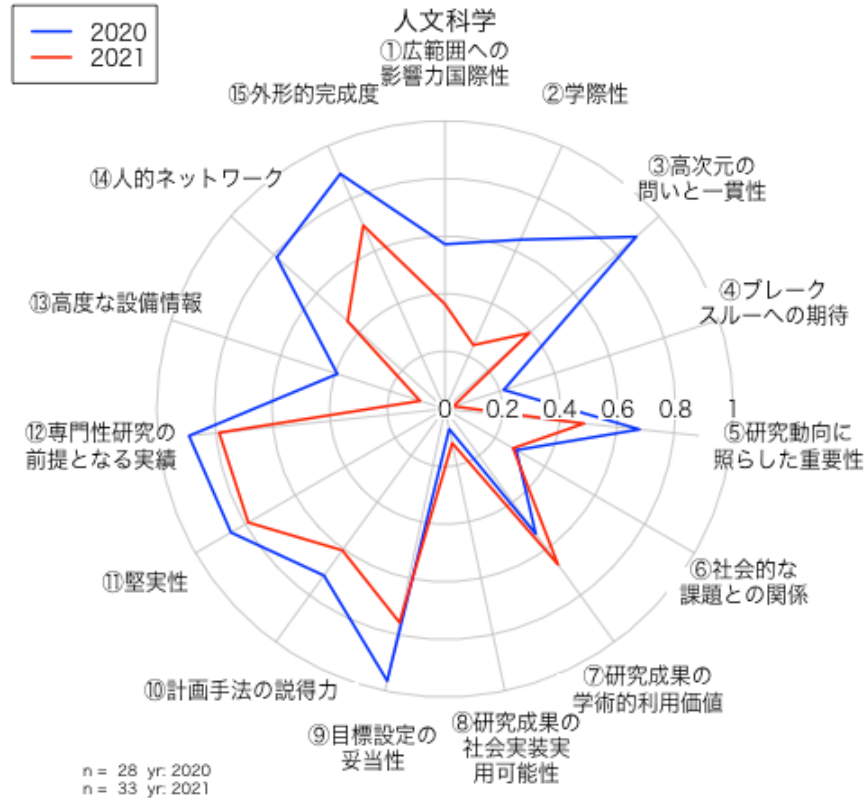
要素名	要素の定義
6.社会的な課題との関係	「問い」や目的において、社会的意義が明示されているかを評価する社会的に認識されている課題であることが重要で、課題解決への影響度は考慮しない。
7.研究成果の学術的利用価値	研究成果が学術的に幅広く応用・活用されるかを評価する。成果の利用価値と、自身が発明、発案した手法の利用価値の二軸で評価する。
8.研究成果の社会実装（実用可能性）	近い将来、実用化されそうな見込みで評価する。社会実装に必要な周辺条件の整備、技術が実用段階になる条件の整備が必要である。
9.目標設定の妥当性	研究目的に対して、その目的を達したと判断できる達成目標の設定状況を評価する。「問い」・社会的課題・研究動向に照らして、達成目標が妥当かどうか？
10.計画/手法の説得力	研究の達成目標に対して、研究手法、優先度、研究計画（スケジュール）、研究状況の判断基準を明示しているかを評価する。「問い」・目的との対応関係（整合性）を重視する。

研究計画調書の15要素評価（Ⅲ）

要素名	要素の定義
11.堅実性	研究の準備状況（予備研究）が、進んでいるかを評価する。研究構想・研究手法と整合性が高い事を重視する。研究テーマの連続性、研究フィールドの確保は評価対象となる。研究方法に関連の高い業績（質）も重視する。
12.専門性・研究の前提となる実績	研究業績、資格、業務経験など、専門性を直接的に表現する事案が明示されているかを評価する。研究分担者のものも含める。
13.高度な設備・情報	高度な設備や、高度な文献・情報へのアクセス確保を評価する。分野外の人が優位性を理解できる説明が必要である。
14.人的ネットワーク	分担者・協力者が十分か、その他連携体制が十分かどうかを評価する。研究計画と組織の関連性が明示されていることを重視する。
15.外形的完成度	論点整理や自然な文章構成、読みやすさ、見やすさを評価する。

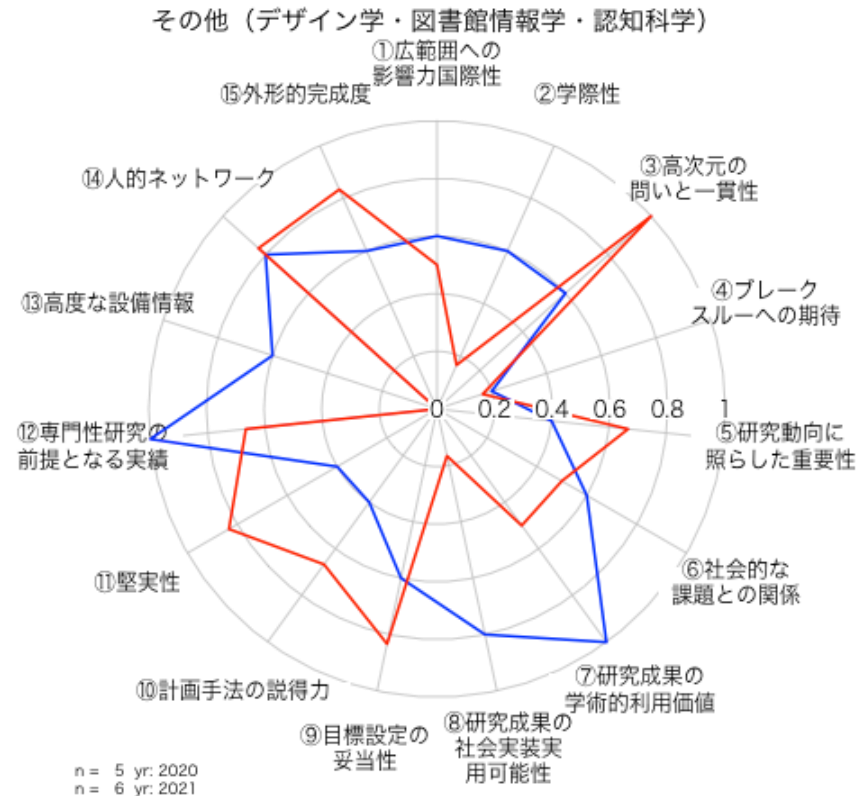
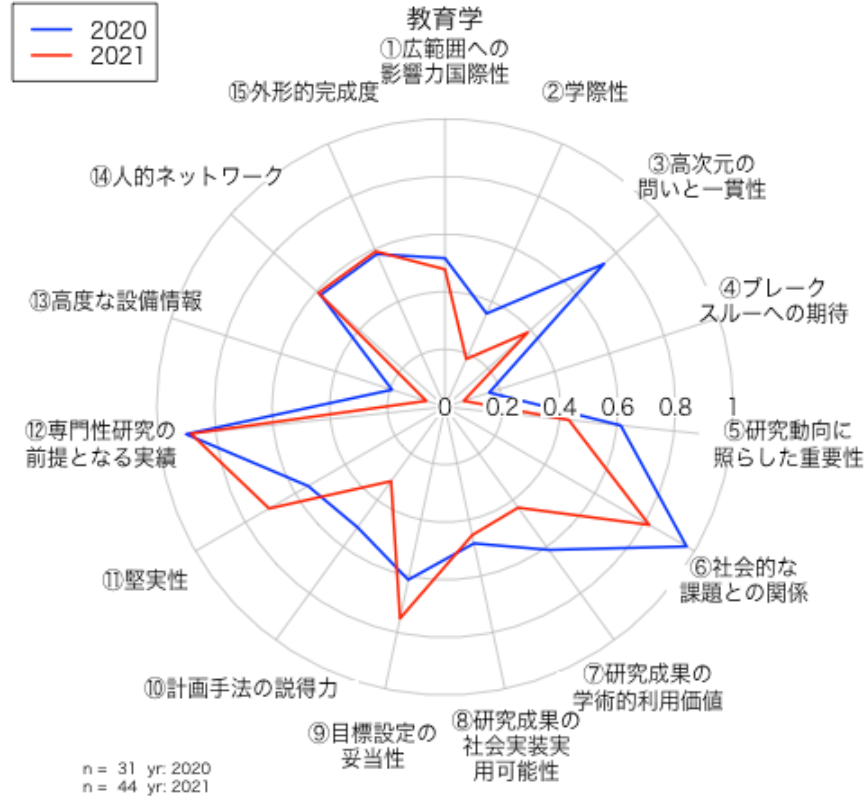
各分野の15要素のバランス（1）

（大区分A採択事例の分析）



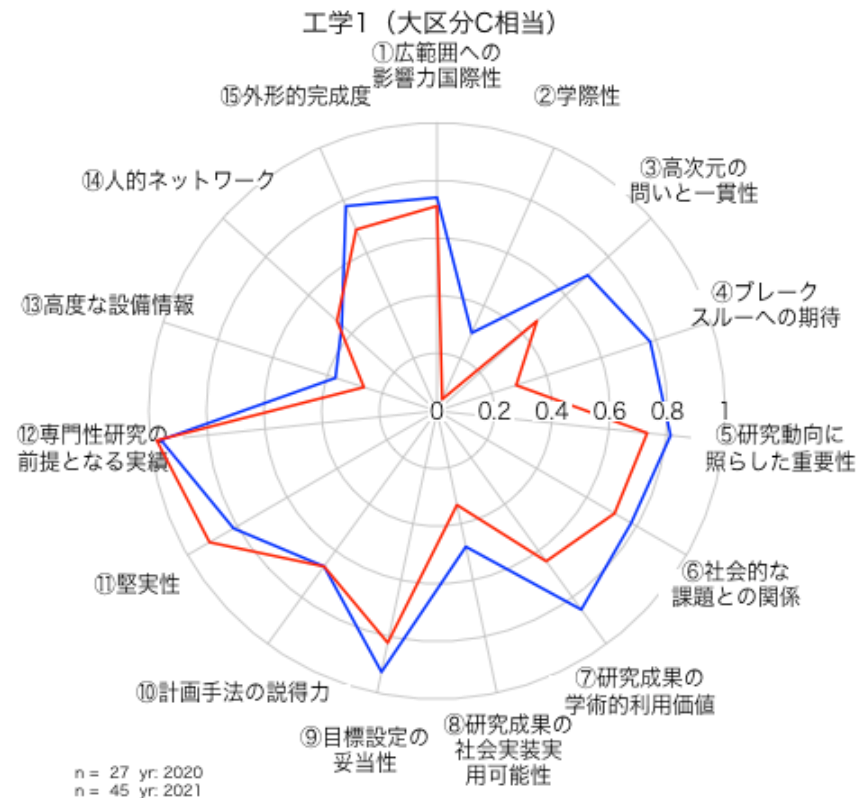
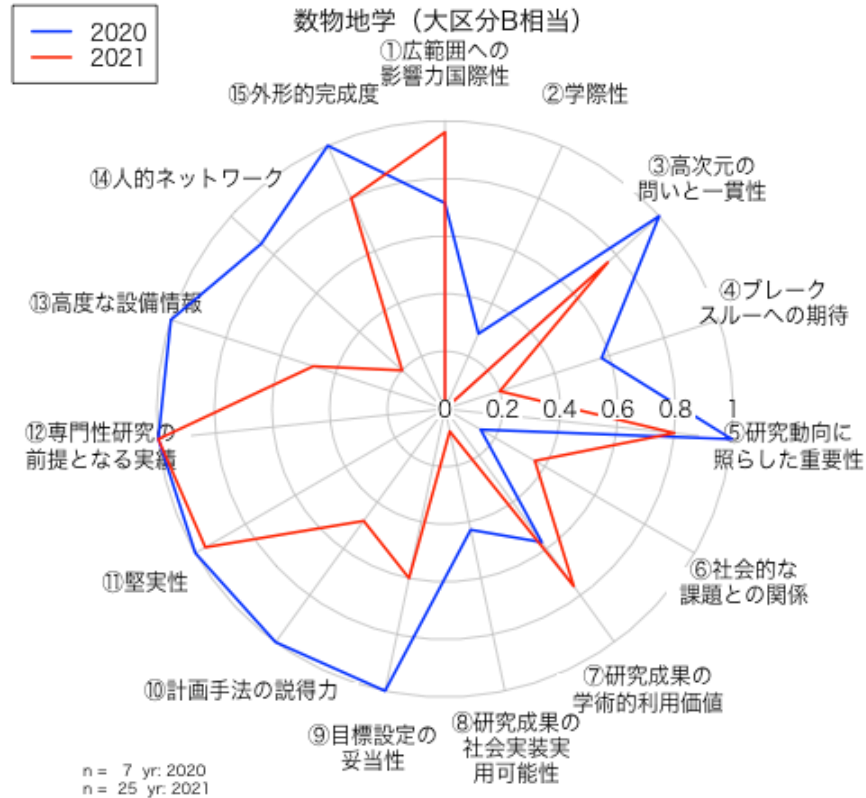
各分野の15要素のバランス（2）

（大区分A採択事例の分析）



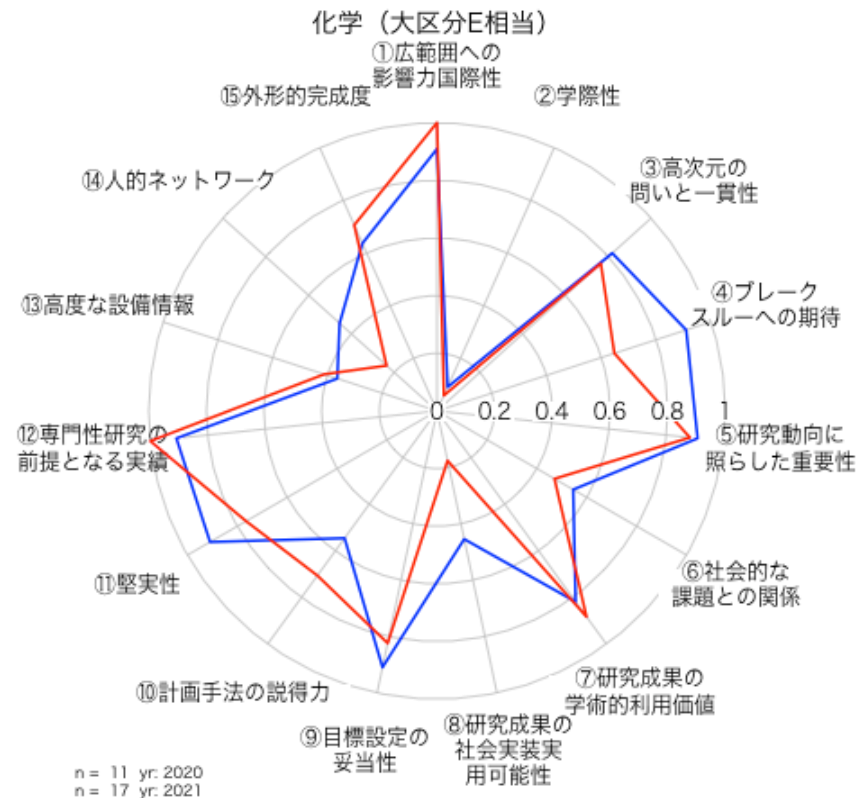
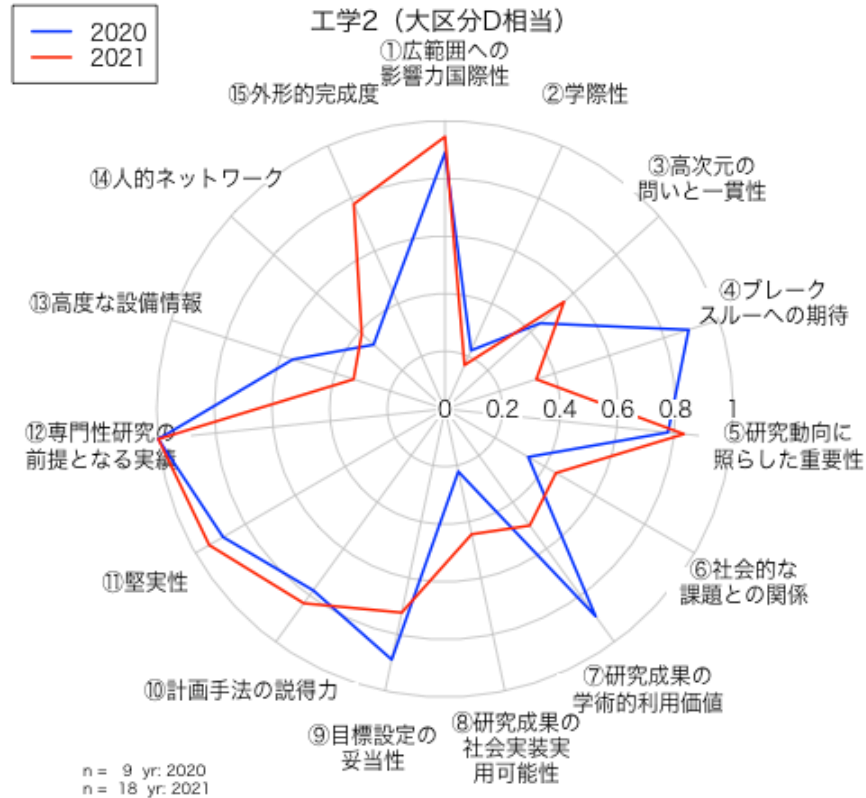
各分野の15要素のバランス（3）

（大区分B,C採択事例の分析）



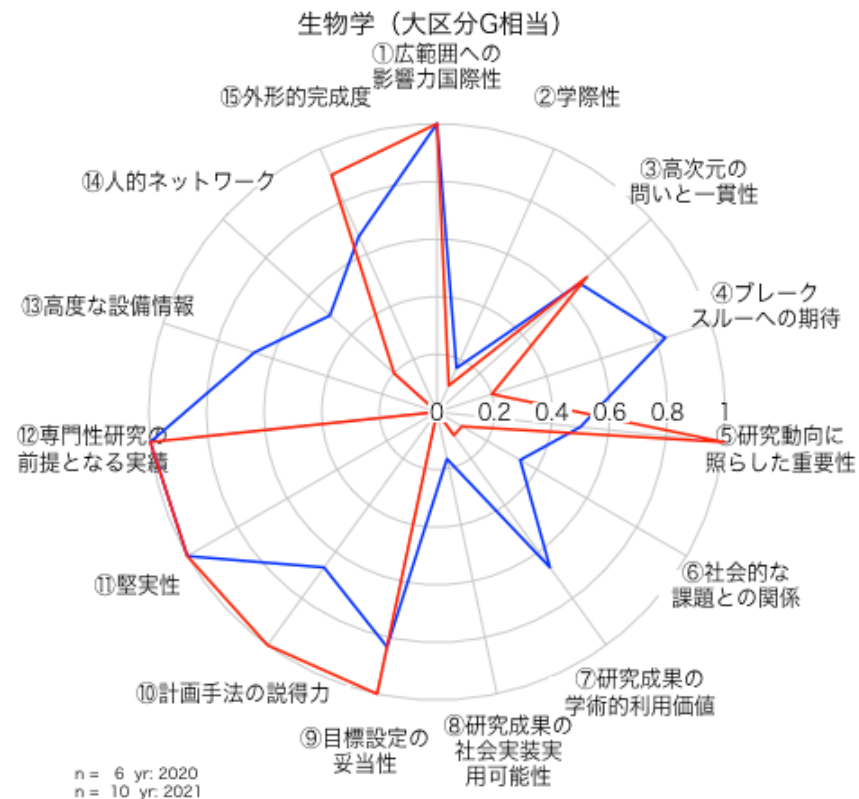
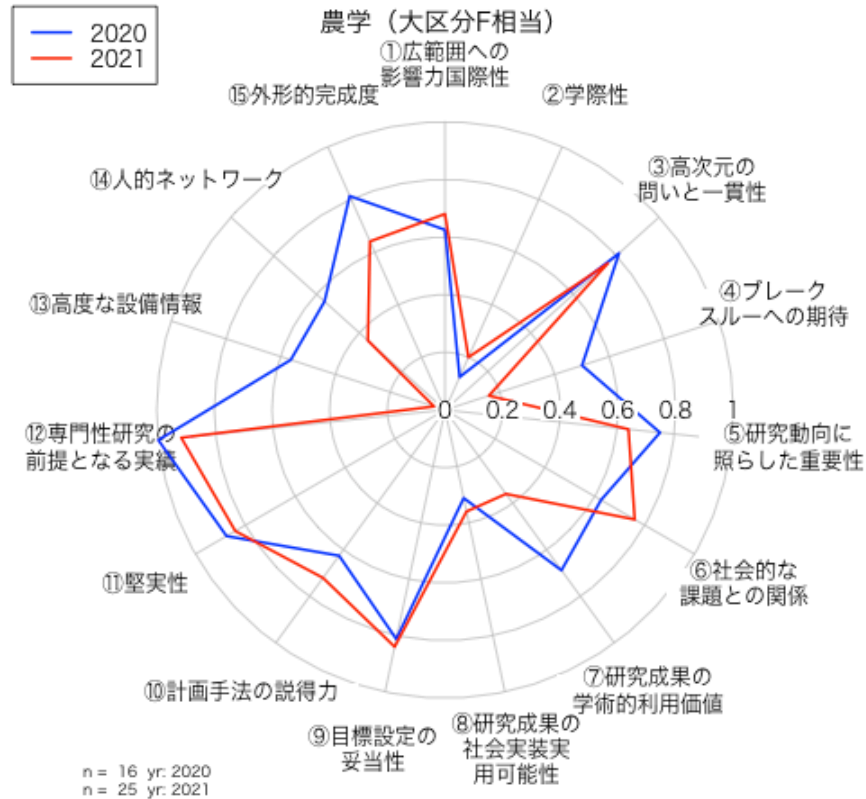
各分野の15要素のバランス（4）

（大区分D,E採択事例の分析）



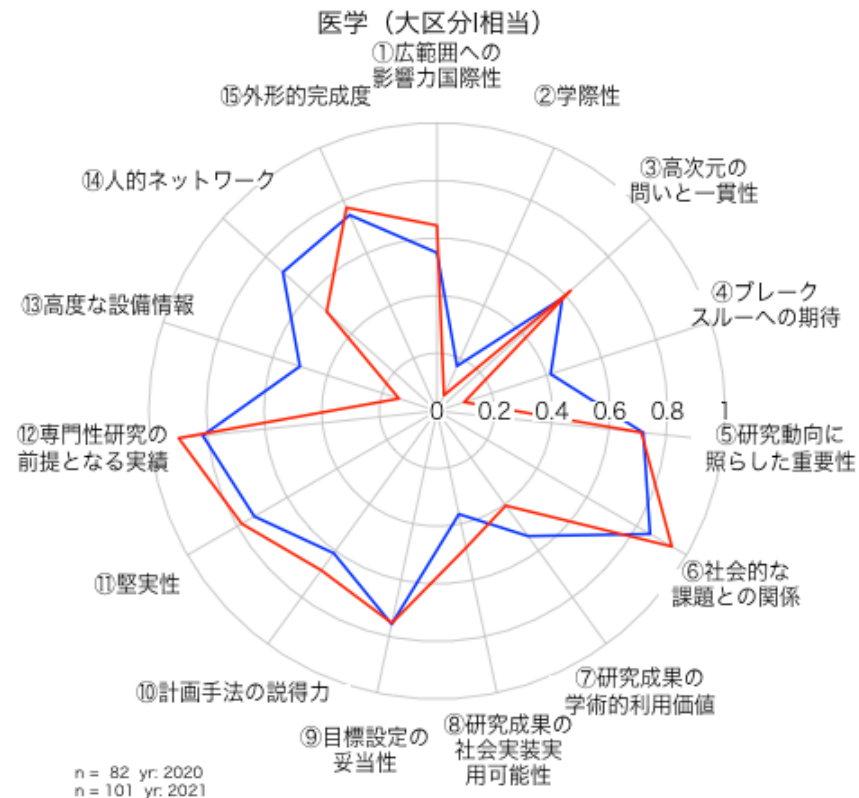
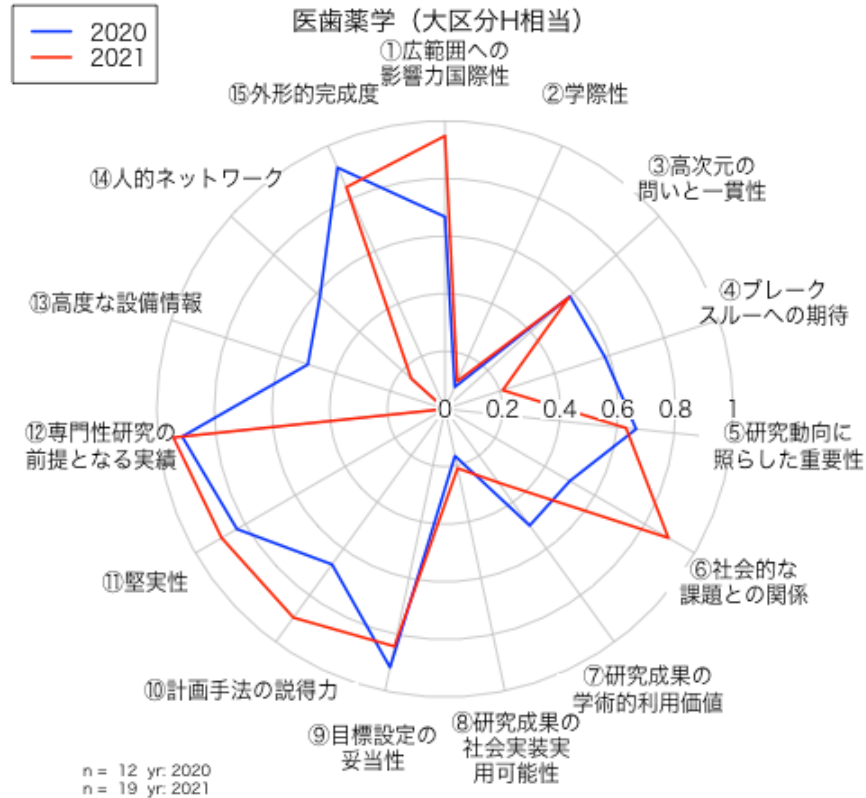
各分野の15要素のバランス（5）

（大区分F,G採択事例の分析）

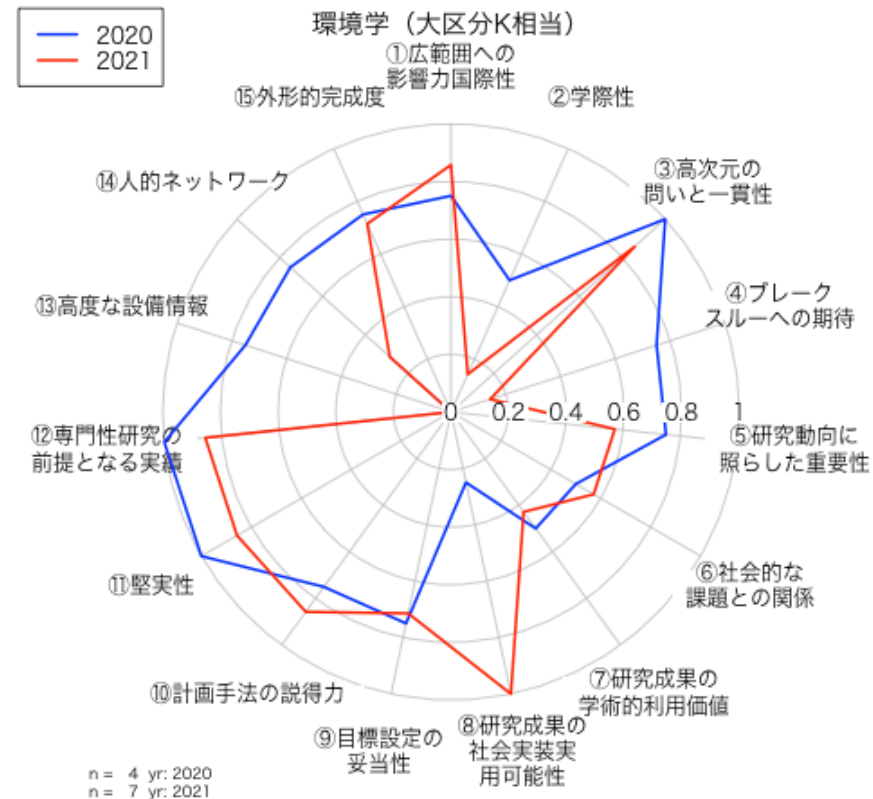
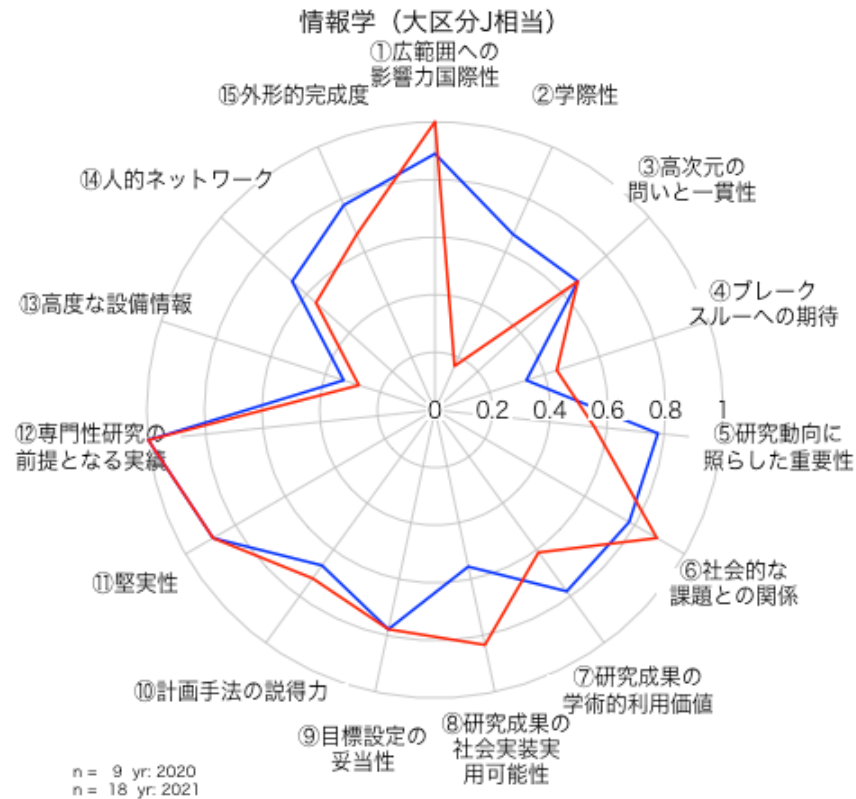


各分野の15要素のバランス（6）

（大区分H,I採択事例の分析）

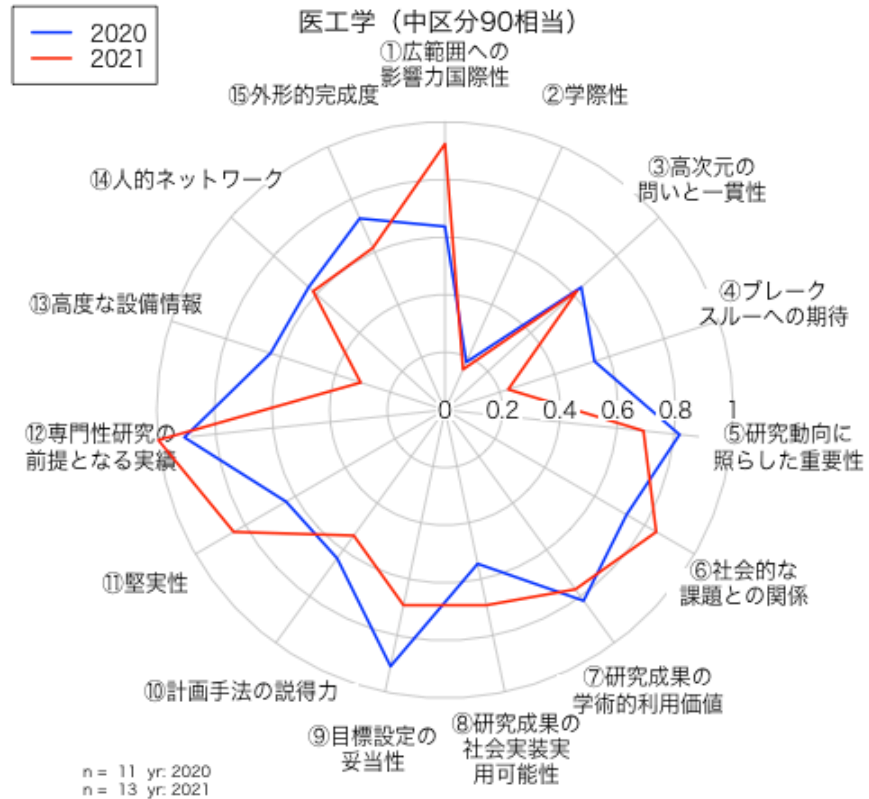


各分野の15要素のバランス（7） （大区分J,K採択事例の分析）



各分野の15要素のバランス（8）

（医工学）



要注意な研究計画調書：8つのパターン

- 研究概要超過型
- 研究背景脚色型
- 研究目的分散型
- 研究手法偏重型
- 研究業績主張型
- 図表説明超過型
- 箇条書き過剰型
- 文章装飾過剰型



研究概要超過型

●「研究目的、研究方法など」欄

今回応募する研究計画において何をしようとしているのか、その全体像を明らかにするため、研究計画調書に記載している指示に従って概要を含め記述すること。概要については、**10行程度で記述**すること。

1 研究目的、研究方法など

本研究計画調査は「小区分」の審査区分で審査されます。記述に当たっては、「科学研究奨励成事業における審査及び評価に関する規程」（公募要領111頁参照）を参考にすること。

本欄には、本研究の目的と方法などについて、3頁以内に記述すること。⁴⁾

冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述し、本文には、(1)本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」、(2)本研究の目的および学術的独自性と創造性、(3)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか、について具体的かつ明確に記述すること。⁴⁾

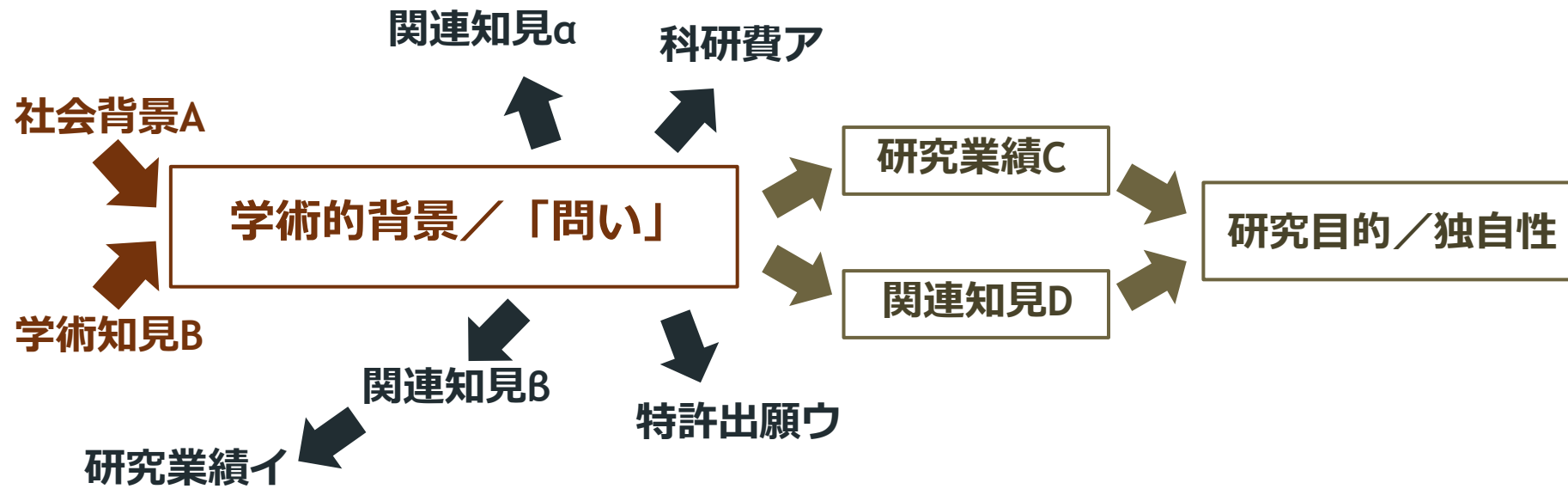
(概要) ←

[illegible][illegible]

(本文) ←

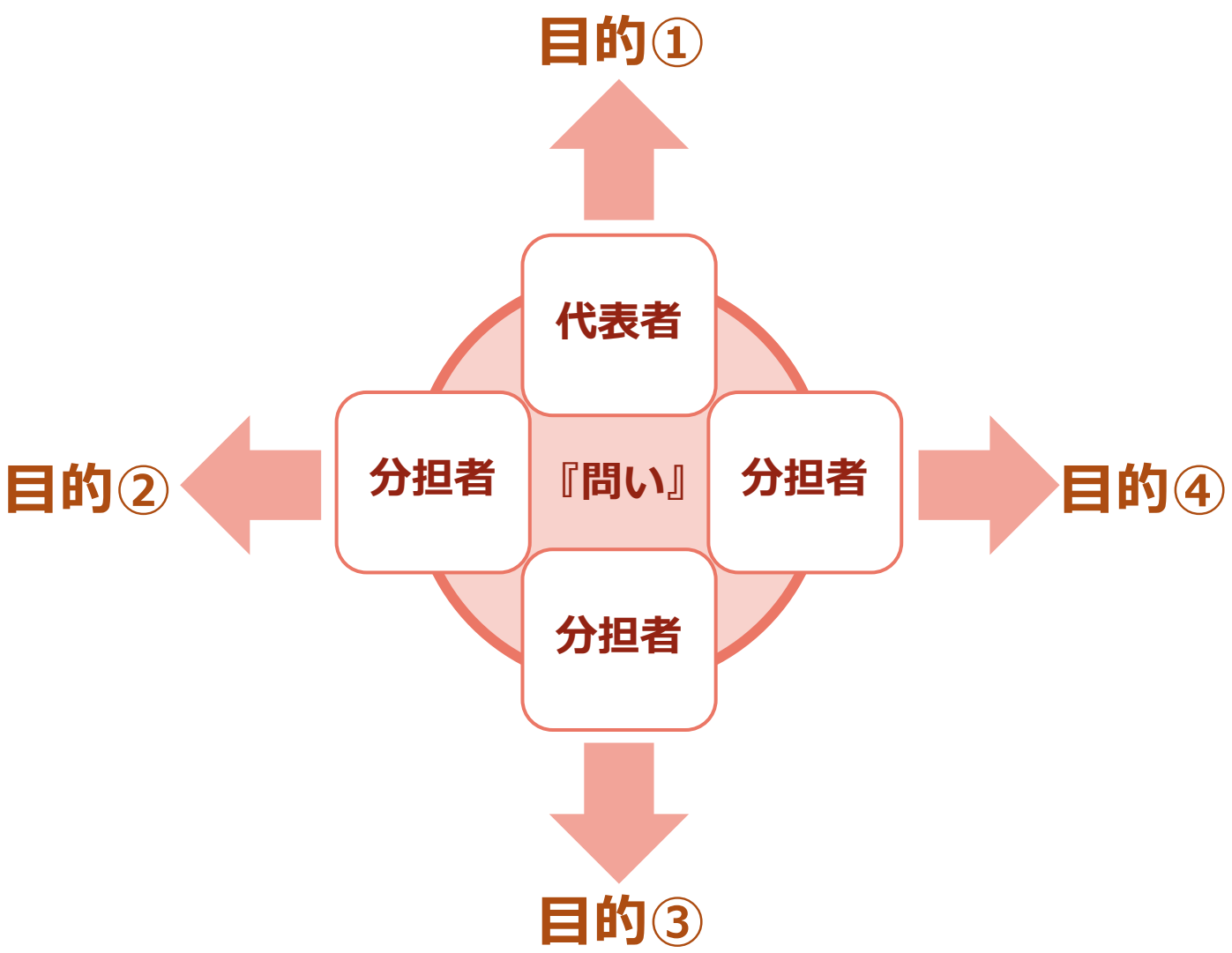
① 本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」←

学術背景脚色型

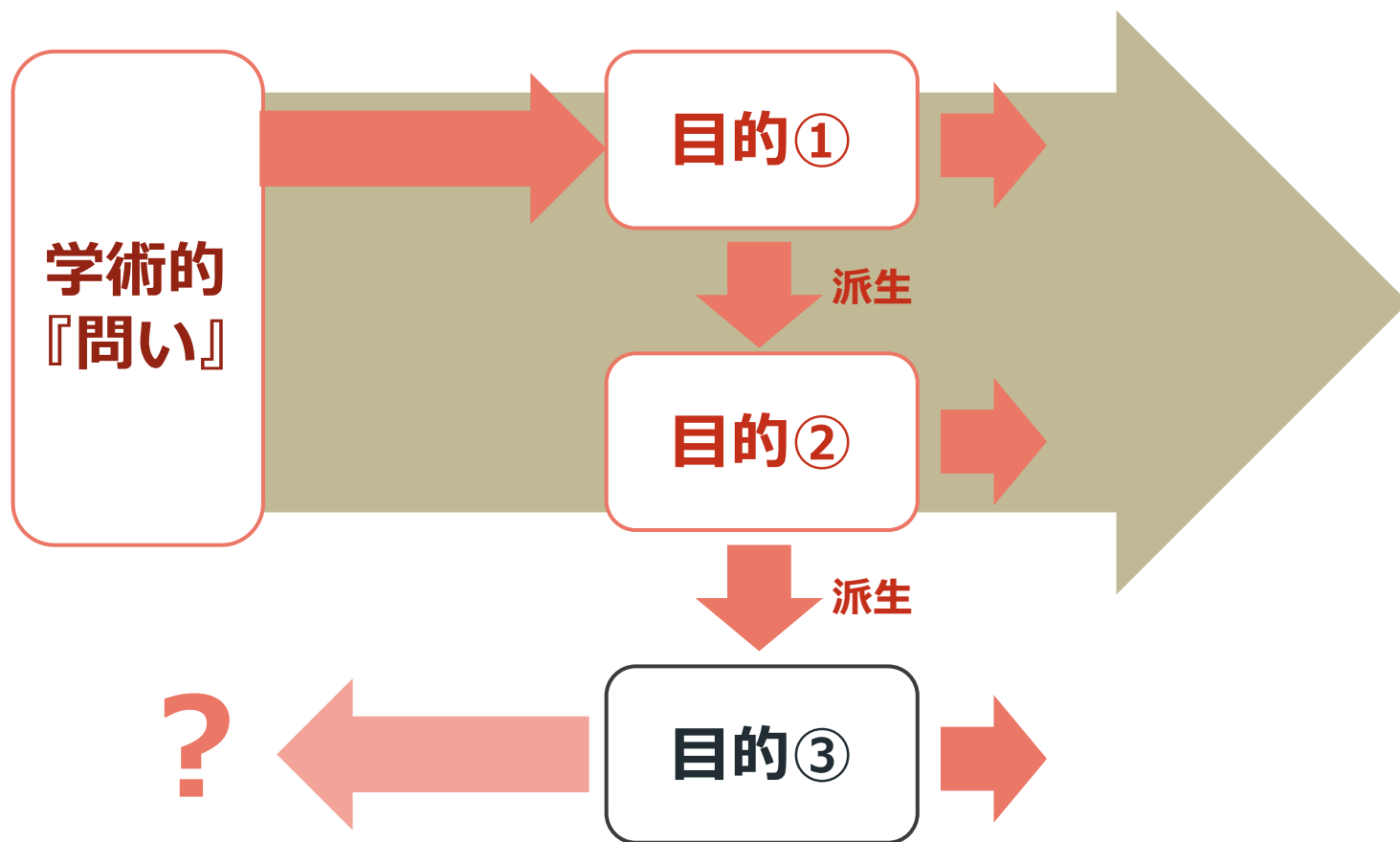


- **自分（自グループ）の研究業績アピール**
論文業績／科研費採択実績／特許出願（権利化）実績
- **過剰な周辺知識**
詳細すぎる研究対象の説明／雑学／うん蓄

研究目的分散型①



研究目的分散型②



研究手法偏重型①

3 本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか

ブタの腸内細菌の有用性を明らかにするため、飼料の分解性を有するような有用微生物の探索を行う。また、塩基配列解析によりブタに特有の腸内細菌かを調べる。

● 初年度計画

(1) サンプル採取

業者から購入したブタ腸サンプルについて、微生物の探索に用いる際にはすぐに実験行うが、菌叢解析に用いる際には使用直前まで -80°C で保存する。

(2) 糖資化性能を有する有用微生物の探索

腸サンプルは、滅菌した生理食塩水と乳鉢ですりつぶす。乳酸菌菌選択培地を用いて菌を単離する。さらに、単一炭素源として、飼料に配合されるオリゴ糖、ペクチン等を使用した培地に移し替える。4回の継代培養の後、プレート培養を行い有用菌を単離する。

(3) ブタの腸内細菌の菌叢解析

-80°C で保存した腸サンプルからDNAを抽出する。このDNAを鋳型として、次世代シーケンサーを用いた16S rDNA配列解析による菌叢解析を外注する。特定配列の共通性と比率に着目してブタ特有の腸内細菌を同定する。



研究手法偏重型②

本計画は三年間の計画で遂行される。以下の通り、作業会合と全体討議を実施し、知見の交換と基礎的理論の構築を進める。

◆ **2020年度** 研究会や全体討議を実施し、基礎理論の第一案を完成させる。

- 4月 ミーティング（全体計画）
- 6月 作業会合（****理論検討）
- 9月 拡大作業会合（**と**との情報交換）
- 11月 ***研究会（関連法の専門家を招聘）
- 2-3月 全体討議（WEB会議を通じた基礎理論の第一案を作成）

◆ **2021年度** 研究会や全体討議を実施し、モデル実装の検討と基礎理論の第二案を完成させる。また、国際ワークショップにて知見の交換を図る。

- 4月 ミーティング（年間計画）
- 6月 作業会合（****理論の発展）
- 9月 拡大作業会合（モデル活用の事例報告・情報交換）
- 11-12月 全体討議（WEB会議を通じた基礎理論第二案の検討）
- 2月 国際ワークショップ（海外研究者（Dr. ****）の招聘）



研究業績主張型

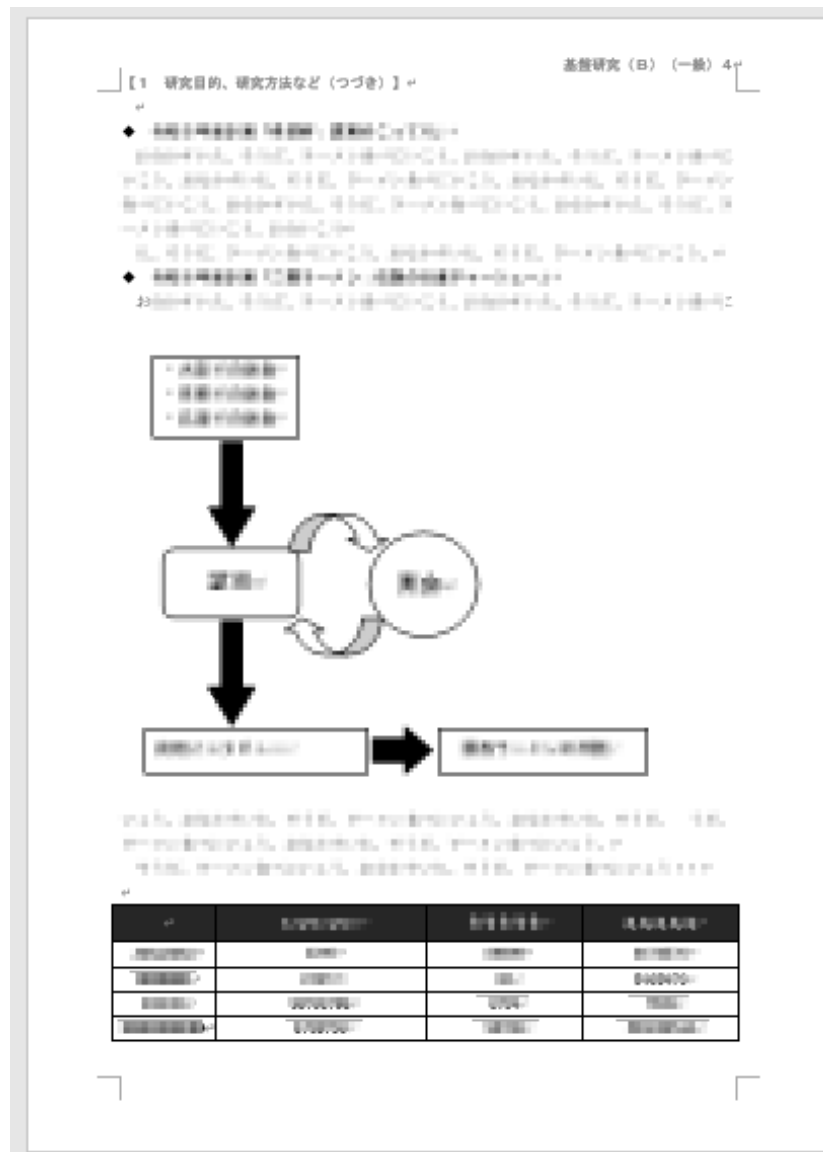
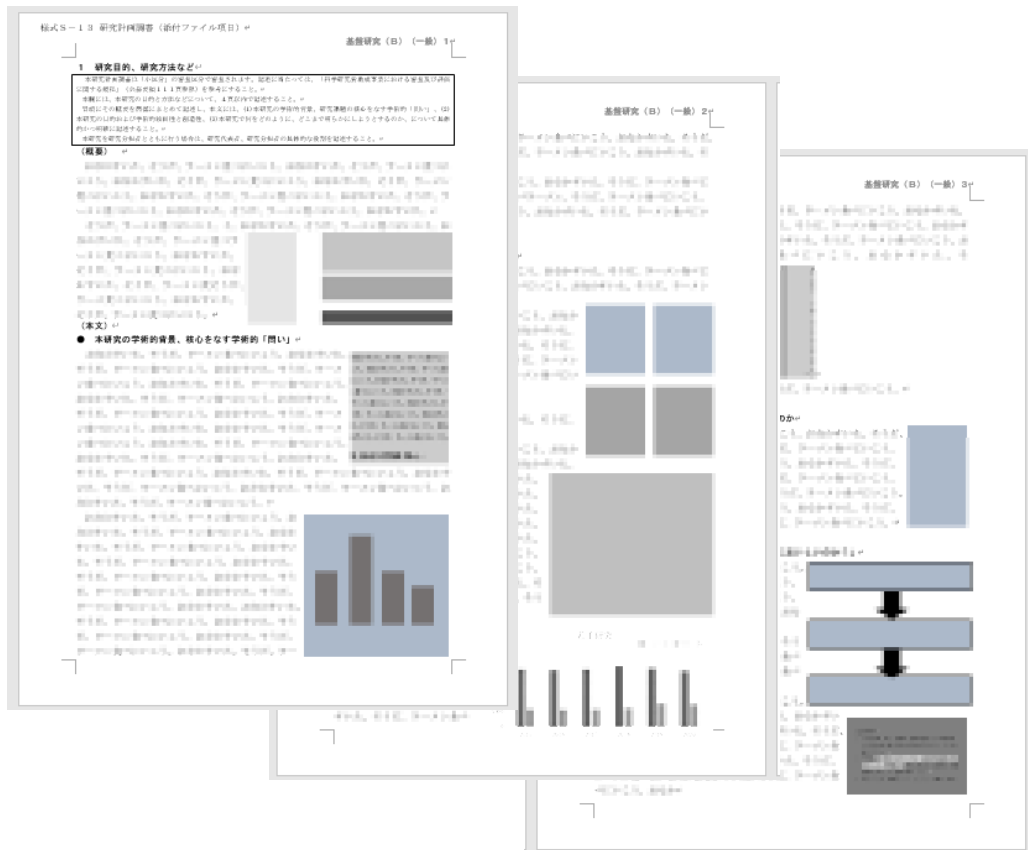
(概要)

申請者らのグループでは複数の表色系を同時に測定出来る色味センサーの測定原理を研究している。2010年度の**科研費基盤研究(C)**（課題番号*****）の成果により**特許を取得**してた(特許*****号、2017年)。また、この研究成果を更に発展させるため、2018年度の**科研費基盤研究(B)**（課題番号*****）では色味だけではなく明度や彩度などを、複合的に計測可能とする新規の数値化を行い、その可能性を理論的に明らかにし、**Natureに論文を掲載した**（*** et al. 2020, Nature (**), ***-***）。

本研究では、上述の研究のさらなる応用展開にむけ、新規な表色系の実現と、その実用化に向けた実験的検証を行う。



圖表說明超過型



箇条書き過剰型

(3) 本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか

2019年度： 初年度は試料作製や典型的なモデル化合物に焦点を絞る。また、その酸化物の物性や構造解析などの基礎的な研究を行う。

- (1) 試料の合成、および結晶の精製
- (2) 高温・高圧下における酸化合物の粘性とナノ表面構造の解析
- (3) その他の材料探索

2020年度： 前年度の研究をベースに誘導体を合成する。その加圧による物理特性の変化に焦点を当てて系統的に研究を推進する。

- (1) 高温・高圧力下における誘導体の物理特性と結晶構造の解析
- (2) その他の材料の誘導体についての物理特性とナノ表面構造の解析

2021年度： 最終年度は、****による*****を行う。

- (1)
- (2)
- (3)



文章装飾過剰型

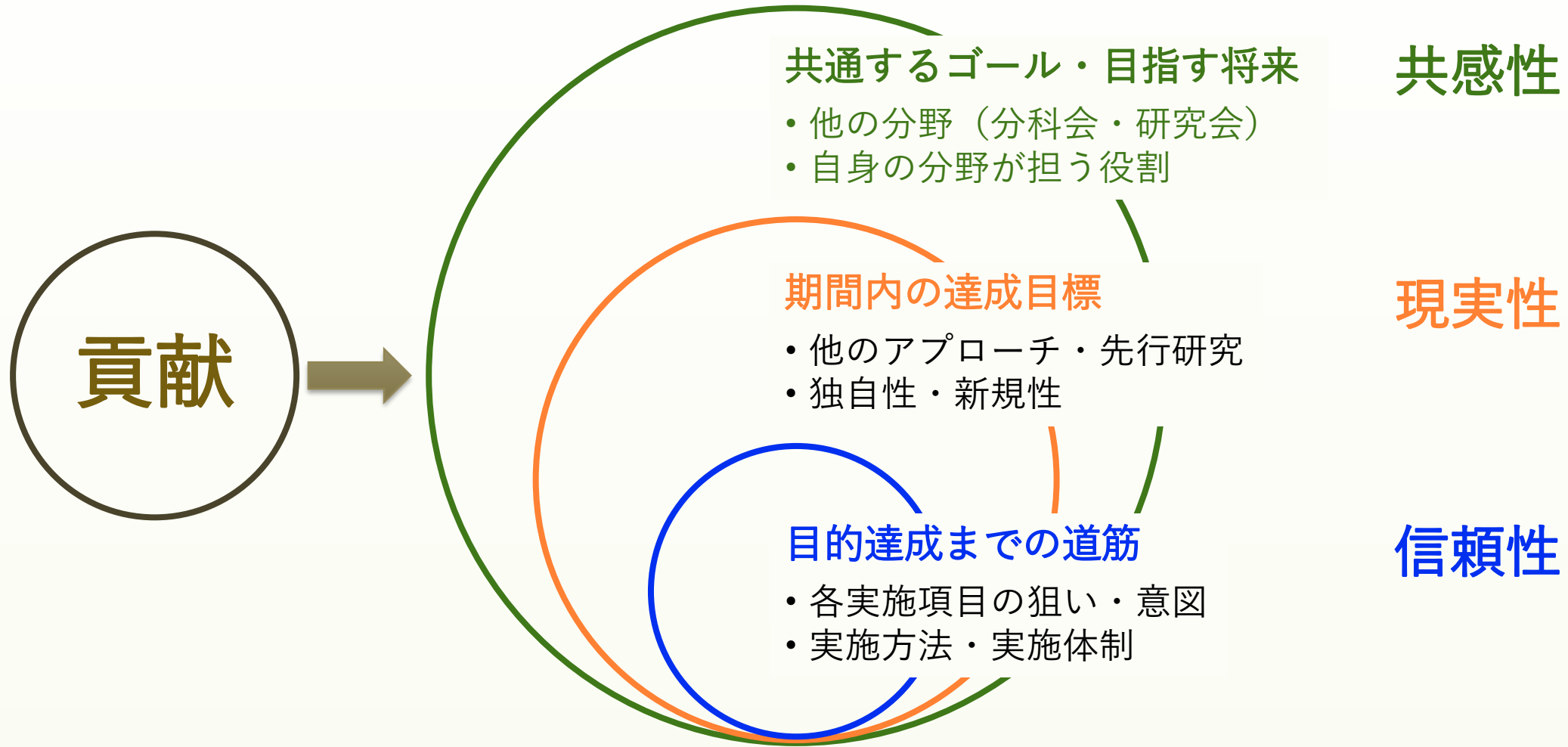
健全な睡眠は、血圧、体温、代謝などの基本的生理現象にとって、重要な役割をになっている。十分な睡眠をとることは、日常生活や健康維持に不可欠であり、不眠は様々な深刻な生活習慣病のみならず、鬱状態など精神異常の原因にもなっている。

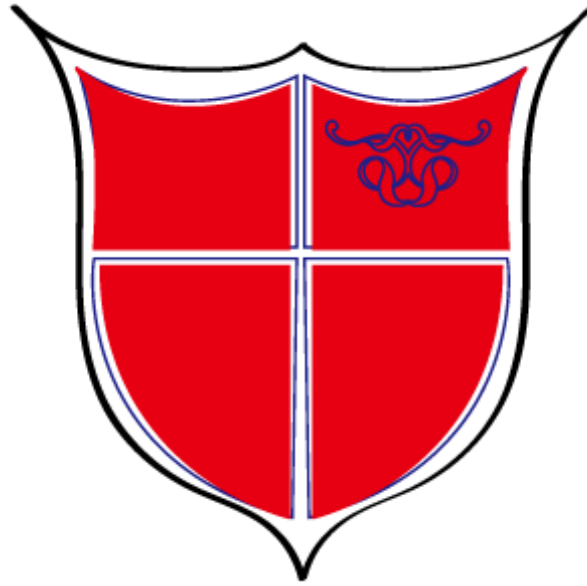
正常な睡眠にとって、外界から網膜に投入される光は、正常な睡眠導入に与える主要な外的因子である。しかし、生活様式の多様化によりこれらを光環境正常に制御するのは困難になりつつある。そこで申請者らは、**新たな睡眠導入要素の同定**が必要であると考えた。

本研究課題では、**ヒトの睡眠リズムを調節可能な栄養素を同定し、同定した栄養素について、**（１）生体内の動態と睡眠活性、（２）標的組織・標的細胞、（３）作用機構を解明し、（４）不眠への予防効果を評価することを目的とした。



研究計画調書に備えるべき要素





ご清聴ありがとうございました

Thank you for your kind attention.